

2022年度(令和4年度)

法人本部事業報告書

社会福祉法人 雪の聖母園

令和4年度 社会福祉法人雪の聖母園 法人本部事業報告

2022年後半から続く諸物価の高騰については、ロシア・ウクライナ情勢による影響や円安による影響が指摘されており、特に数千種類に及ぶ食料品の値上げや原油高による燃料費の値上げは電気代の値上げに直結し、そのことが利用者の皆さんの生活に直接的に影響を及ぼし極めて深刻なものとなってきています。

また、2020年1月16日、日本国内において初の新型コロナウイルス陽性者が報告されてから丸3年を経過し、令和5年3月13日以降マスク装着については一部を除いて「個人の判断に任せる」といったことや、令和5年5月8日以降は政府からの発表により、感染症分類を2類から季節性インフルエンザと同様の5類相当に引き下げられることとなりました。今後につきましては、社会福祉施設として、まさに「ウィズコロナ」「アフターコロナ」時代の対応が求められることとなります。

こういった中、令和4年度は重点的に取り組むこととして九つの課題を設定し取り組んでまいりました。

この中で、コロナ禍で閉鎖的になりがちな状態を改善し利用者の皆さんの日常を発信すべく、障がい・保育ともにフェイスブックを立ち上げ日々の取り組みをお知らせするとともに、法人としての広報誌を作成し全体の動きを皆様にお伝えするように努めました。

また、平成28年の社会福祉法改正により、福祉サービスの供給体制の整備及び充実を図るため、社会福祉法人制度について経営組織のガバナンスの強化、事業運営の透明性の向上等の社会福祉法人制度改革が行われましたが、当法人といたしましてもこのことに取り組み、各地域事業所の強みや持ち味を十分に発揮できるよう、法人本部を独立させそのサポート機能を整備いたしました。このことにより各事業所間の調整を図り相乗的に法人の力量を高めて行くことを目指してゆきたいと考えます。

日本の総人口は2008年をピークに、2011年以降は一貫して減少してきており、確実に人口減少社会へと突き進んでいる現状と言えます。団塊ジュニア世代が高齢者となる2040年を見据えた対策も様々な角度から検討されてきていますが、特にこの傾向が顕著である北海道においては、既に多くの分野でその機能の維持継続が懸念されています。当法人の障がいの事業所でも同様なことが現実のこととして対応が迫られていますし、保育の事業所においては少子化の影響に直面しています。

今後、こういった傾向に備える経営の取り組みが喫緊の課題として求められますが、今一度人口減少社会において果たす社会福祉施設の役割をしっかりと認識しながら、地域共生社会を支える一員として皆様に信頼される社会福祉法人を目指してゆきたいと考えますので、引き続き関係の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

1. 法人の事業運営

1) 実施事業

(令和5年3月31日現在)

| 施設種別 | 施設名 | 事業開始年月日 | 定員 |
|--|---|--------------------------|--|
| 保育所 (第2種) 障がい者支援施設 (第1種) | 静内ベビーホーム 雪の聖母園 | 昭和44年1月1日 平成18年10月1日 | 定員60名 施設入所60名 生活介護55名 就労移行支援10名 就労継続支援B33名 |
| 短期入所 (第2種) 共同生活援助(介護サービス包括型) (第2種) | 雪の聖母園 事業所さくら | 平成18年10月1日 平成18年10月1日 | 併設2名 空室利用 定員32名 |
| 相談支援事業 (第2種) 短期入所 (第2種) | 雪の聖母園 しみずさわ | 平成18年10月1日 平成18年10月1日 | 空室利用 |
| 共同生活援助(介護サービス包括型) (第2種) 共同生活援助(日中サービス支援型) (第2種) | しみずさわ ライフネットゆうばり | 平成22年11月11日 令和3年5月1日 | 定員20名 定員20名 生活介護30名 就労移行支援6名 就労継続支援B15名 |
| 保育所 (第2種) | 月形町認定こども園 花の里こども園 地域子育て支援拠点事業、一時預かり事業 | 令和3年4月1日 | 定員80名 |

2) 職員の状況 (令和5年3月31現在)

| 地 区 | 正 職 | 嘱託臨時等 | 計 |
|----------------|-------------|-------------|-------------------------|
| 月形 (5事業所) | 49名 | 39名 | 88名 (男34名、女54名) |
| 夕張 (3事業所) | 10名 | 26名 | 36名 (男13名、女23名) |
| 新ひだか (1事業所) | 17名 | 11名 | 28名 (女28名) |
| 全 体 | 76名 (75) | 76名 (70) | 152名(145) 男47名、女105名 |

() 内は令和3年度

3) 会議の開催

理事会

| | 開催月日 | 議 題 |
|-----|-------------|------------------------|
| 第1回 | 令和4年 6月 6日 | 令和3年度事業報告、決算、定時評議員会日程他 |
| 第2回 | 令和4年 9月 5日 | 就業規則の改定他 |
| 第3回 | 令和4年 12月 5日 | 第一次補正予算、給与規程の改定他 |
| 第4回 | 令和5年 3月 14日 | 第二次補正、事業計画・予算等 |
| 第5回 | 令和5年 3月 30日 | 役員等賠償責任保険契約について(書面) |

評議員会

| | | |
|-----|-----------|----------------------------|
| 定 時 | 令和4年6月21日 | 令和3年度事業報告、決算の承認、他 |
| 第2回 | 令和5年3月27日 | 令和4年度二次補正、令和5年度事業計画、予算の承認他 |

4) 監査の実施

| | 実施年月 | 内 容 |
|-----|------------|----------------------------------|
| 第1回 | 令和4年 5月26日 | 令和3年度事業報告、決算 |
| 第2回 | 令和4年 7月19日 | 静内ベビーホーム実地監査、第1四半期までの運営状況 |
| 第3回 | 令和4年 9月13日 | ライフネットゆうばり、GHしみずさわ他の第2四半期までの運営状況 |
| 第4回 | 令和5年 1月30日 | 花の里こども園の第3四半期までの運営状況 |

| | | |
|-----|------------|----------------------------|
| 第5回 | 令和5年 2月 6日 | そらち障がい者支援センターの第3四半期までの運営状況 |
| 第6回 | 令和5年 2月27日 | 障がい者支援施設雪の聖母園の第4四半期までの運営状況 |

・外部監査

公認会計士事務所による月次の外部監査を定期的に受け、令和4年5月26日には決算監査を受けました。

5) 研修

従来の研修会・セミナーなどの多くが新型コロナウイルス蔓延防止により、開催の中止、若しくはオンライン開催となっている。受講実績、及び内容については、各事業所の事業報告に記載している。

6) 規程等の改正・整備

- ・社会福祉法人雪の聖母園 就業規則の改定
- ・社会福祉法人雪の聖母園 給与規程の改定
- ・社会福祉法人雪の聖母園 経理規定の改定

2. 道の指導等

- 1) 空知総合振興局 実施日 令和4年11月22日
○花の里こども園
・令和4年度保育所実地指導の結果について
結果 文書指導事項並びに口頭指導事項なし

- 2) 日高振興局 実施日 令和4年11月24日
○静内ベビーホーム
・令和4年度保育所実地指導の結果について
結果 文書指導事項並びに口頭指導事項なし

令和4年度 障がい者支援施設雪の聖母園事業報告

1. 運営状況

1) 概況

障がい者支援施設雪の聖母園では令和4年度において、施設入所支援、生活介護事業、就労継続支援B型事業、短期入所事業の各事業間での連携を強化し、利用者支援に努めました。

利用者の高齢化から、重度化や身体的支援の必要性が増しておりますが、雪の聖母園での暮らしを望まれる方々に対して、支援スタッフ、看護師や栄養士、かかりつけの医師と連携しながら、新型コロナウイルス感染症予防をはじめ、事故や疾患等を含め日常的な健康管理に留意し、支援を行いました。

令和4年度は、疾患から入院の後、医療機関にて逝去された方が1名、療養型の医療機関へ移行された方が1名、身体的機能の変化から高齢者施設への移行された方が1名、グループホームへ移行された方が1名、在宅での生活に切り替えた方が1名おり、併せて5名の退所がありました。また、養護学校および児童養護施設退所後の生活場所を求めて入所を希望された方が2名、在宅での生活に困難性を感じ入所された方1名併せて3名の入所がありました。

その他にも高齢化による機能低下が顕著な方が増えている中で、日常生活における健康管理やご家族や医療機関との連携、密な引継ぎを行い、職員間の認識を深めました。

令和3年度から継続して令和4年度においても、地域の新型コロナウイルスの感染拡大状況、国や道からの感染予防に係る通知を鑑みながら、適宜催事の縮小開催や日常の支援における感染防止策を行いながら利用者およびご家族に対し、面会、外泊や外出時における感染予防をお願いし、日常的な健康管理についても細やかな支援を継続して実施しました。残念ながら、10月から11月にかけて施設内において大きなクラスターが発生し、利用者48名、職員10名が感染してしまいましたが、協力医療機関である月形町立病院の医師看護師の協力を得ながら、罹患した利用者皆さんの体調管理に努めることができました。

安全管理については、防災・防犯委員会が主体となり、利用者および職員の意識向上と訓練の実施、非常時における初動体制の確認等を進めました。令和4年度において災害の発生はありませんでしたが、いつ起こるともわからない災害に対し、利用者の安全確保を担保できるよう資器材の整備について進めました。

防火については、各防火管理者が消防と連携し防火活動を進めました。

消防機関と調整し、感染対策を講じながら消防立会いの下避難訓練を実施すること

が出来ました。

事故においては、機能低下にともなう転倒や他者とのトラブルによる怪我等が発生しております。誤薬や服薬ミスについては、継続して発生件数は少ない傾向にありますが、いまだ数件の発生が見られており、継続して再発防止の取り組みを実施してまいります。

権利擁護については、虐待事案が発生した施設への応援派遣職員から実践報告を踏まえた研修会を開催し、日常的な支援の中で不適切な支援がないか振り返りを行いました。意識啓発活動を通じて職員一人ひとりが虐待や不適切な支援を行わない事を誓い、利用者の人権や安心安全が確保されるよう支援にあたりました。

令和4年度においては、日々の支援の中で不適切と考えられる事案はありませんでしたが、不適切な支援とならぬよう支援の向上を進め、万が一虐待が疑われるような際には速やかに報告し、通報義務を遂行することを職員間での共有を図りました。

地域貢献の一環として、コミュニティショップマンマルーナにおいて、地域団体への会合場所の無償提供を行い、幅広い年代の方が集まる場所としてご利用いただいた他、町内団体催事への職員派遣や協力出店を行い、地域における資源として役割を担うことができました。

ご家族保護者との連携については、面会等の機会が減少していることから、書面にてお知らせを送付する機会を多く設定し、情報の発信に努めました。

また、雪の聖母園家族会については、新型コロナウイルスの感染状況を鑑みながら奉仕ボランティアにおいでいただきました。家族会役員会や総会に数名の職員が参加し、意見交換を行う事が出来ました。

2) 利用者の動向

令和4年度は、逝去に伴う退所、医療機関や他施設への移行に伴う退所、併せて5名の退所がありました。新規入所については3名の受け入れがありました。

表1 利用者概況

令和5年3月31日現在

| 事業種別(現員) | 男性 | 女性 | 平均支援区分 |
|-------------|-------|-------|--------|
| 施設入所(49名) | 32名 | 17名 | 4.7 |
| 平均年齢 | 43.7歳 | 56.6歳 | 48.2歳 |
| 生活介護(54名) | 33名 | 21名 | 4.7 |
| 平均年齢 | 44.7歳 | 56.6歳 | 48.0歳 |
| 就労継続B型(29名) | 19名 | 10名 | 3.1 |
| 平均年齢 | 55.3歳 | 63.3歳 | 58.0歳 |

3) 職員体制

令和4年度は、4月に正規職員1名が広域異動にて赴任、年度途中で正規職員を2名、嘱託2名、パートを3名採用しております。年度途中で正規職員が2名、パート職員が2名、年度末に嘱託職員1名、パート職員2名が退職しております。

- ・退職～7名（正規2名、嘱託1名、パート4名）
- ・採用～7名（正規2名、嘱託2名、パート3名）

4) 安全管理

(1) 防災防犯

防災防犯については、「雪の聖母園災害対策計画」に則り、計画的に訓練や備えについての検討を重ねました。消防機関立会いの下、避難訓練や講話を実施いただきました。防災については、自然災害への対策として避難訓練（地震想定）を9月19日に実施しました。防災・防犯委員会では、月に一度、各部署から担当職員が参加し会議を開催しました。各々の事業所等において必要な資機材や備蓄について検討を行い、順次整備を進めました。計画的に備蓄の入れ替えや資器材の購入を行いました。

(2) 防火

防火に関しては「令和4年度雪の聖母園消防計画」「令和4年度就労支援センターオプス消防計画」に基づいて、避難訓練、通報訓練を実施しました。

また、岩見沢消防署による防火査察を受け、防火に関する日常的な留意事項等について助言いただき防火対策に努めました。自主避難訓練として7月18日に避難訓練、利用者向け防火学習を実施し、消防機関立ち合いによる火災想定避難訓練は3月13日に就労支援センターオプス、2月23日に雪の聖母園にて実施しました。

(3) リスクマネジメント

毎月委員会を開催し、報告のあった事故やヒヤリハットについて検討し、その内容を職員会議やケース会議で他職員への周知や支援の共有、さらに検討を重ね職員間で統一した見解や意識を持って事故防止対策や支援に活かすための取り組みを進めました。事故発生の傾向としてADL機能の低下による転倒等による怪我に加え、利用者同士のトラブルによる転倒や怪我をしてしまう事故が発生していたため、利用者の状態変化を見定めながら付き添いや見守りの頻度を高めて支援を行ないました。

服薬ミスについては、チェック体制を厳格化し、複数職員による服用前の確認に加え、服用後の確認をしっかりと行う事で事故件数が低調傾向にあるため、継続して服薬介助時の動作や利用者氏名のダブルチェック等の基本の支援が確実に実行できるよう支援員間で共有を図りました。

(表3 令和4年度 事故及びヒヤリハット発生内訳について)

| 時期 内容 | 4 月 | 5 月 | 6 月 | 7 月 | 8 月 | 9 月 | 10 月 | 11 月 | 12 月 | 1 月 | 2 月 | 3 月 | 計 | 昨年 |
|----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|---------|---------|--------|--------|--------|---|----|
| 服薬ミス | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 |
| 転倒・怪我 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 3 | 6 |
| その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 | 2 |
| 計 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 7 | 10 |
| ヒヤリ | 0 | 0 | 2 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 5 | 2 |

(4) 感染症予防

感染症特に新型コロナウイルスの予防に関して、全12回の委員会を開催し、感染症の蔓延予防にかかる情報共有や各部署への伝達について協議検討を行いました。新型コロナウイルスについては、国や北海道からの通知や情報を整理し、感染防止対策について検討を行い、各事業所への周知徹底に務めました。

月形町保健福祉課と連携し、利用者や職員に対し円滑に新型コロナウイルスワクチンの接種を進めることが出来ました。利用者は8月、1月に4、5回目の接種を行い、職員については利用者と同じないし個別に日程調整を図り随時4、5回目の接種を行いました。

10月末から11月中旬にかけて、施設内において新型コロナウイルス感染症クラスターが発生し、利用者48名、職員10名が罹患しました。肺炎の発症や食事摂取、服薬困難となった方3名が月形町立病院において療養しましたが、重症化することなく全快され、施設内で療養された方についても同様に全快されております。

5) 権利擁護

支援の個別化や利用者の自己決定のための支援の充実を図りました。

日常的な支援サービスの提供にあたっては、年度当初に利用者との面談と、ご家族への説明を行い、利用者一人ひとりの個性や身体状況、ニーズに即した個別支援計画を策定し、継続的で本人の実情に即したものとなるよう努めました。また、月例のケース会議においても細部の修正、職員の意思統一を図りました。

令和4年度においては、日々の支援の中で援護市町村や北海道へ報告を要する不適切と考えられる事案はありませんでしたが、不適切な支援とならぬよう支援の向上を進め、万が一虐待が疑われるような際には速やかに報告し、通報義務を遂行することを職員間での共有を図りました。

(1) 虐待防止委員会

虐待防止委員会活動として、日頃の支援業務における職員へのアンケート調査等を行い、意識啓発を進めた他、研修参加が難しい職種も含めて全3回の園内研修を実施しました。外部研修受講後の各職員へ伝達することで職員間での権利擁護意識の共有、統一を図りました。年度初めには、全職員が利用者の人権侵害をしない事を固く心に誓い、北海道知的障がい福祉協会「人権侵害0の誓い」に署名をしました。

(2) 苦情への対応

利用者からの苦情は常設の投書箱を用意し随時受け付けておりますが、投書はありませんでした。利用者の自治活動に一環として行っている利用者会議の場、日常的な支援員との関わりの中で不満や問題となっている事柄について職員間での共有が出来るよう、苦情解決書式を用い、日常の中で解決できているような困りごとや事案についても整理し、改善できるよう取り組みを行いました。昨年度と同様に、利用者間のトラブルや、職員の対応についての相談が寄せられており、利用者同士の関係調整や利用者への説明や対応が丁寧になされていなかったことが原因と考えられました。本人の気持ちを聞くことで不満が解決する場面も見られているため、日常的に傾聴に努めるとともに他利用者や職員に対して誤解や不安のないよう支援の提供に努めました。

(3) 自治活動の推進

雪の聖母園においては利用者会議、就労支援センターオプスにおいては職場会議を開催し、毎月の事業所予定や作業内容、催事等の情報周知や利用者の希望確認等を会議の中で行いました。日々の生活や作業の中での困りごとや意見等について話を聞取りました。施設設備に関わることなどを受け付けており、苦情につながるようなものはありませんでした。

(4) 職員資質の向上

職員資質の向上については、内部研修の実施、外部研修の参加をより積極的に行ない、研修で得た知識や技術を内部研修や会議の中や内部研修にて参加していない職員へ伝達する時間を設け、全体での共有と研鑽を進めることが出来ました

① 外部研修

職員の経験年数や職務内容を考慮し、社会福祉協議会や道や空知の知的しょうがい福祉協会の開催する研修会に参加し、支援技術や知識の習得と情報の収集に努めました。

② 内部研修

内部研修に関しては、虐待事案により施設運営が滞った施設に派遣した法人職員

が講師を務め、権利擁護研修を行いました。日常的な支援の中で不適切な支援がないか振り返りを行い、利用者の人権や安心安全が確保されるよう権利擁護意識の重要性について再認識しました。

(表 4 令和 4 年度 研修実績)

| 項 目 | 参加回数 | 延べ人数 | 備考 |
|-------------------------|------|------|------------|
| 北海道 | 6 回 | 9 名 | |
| 社会福祉協議会 | 2 回 | 2 名 | |
| 知的障がい福祉協会 (全国・道・地方会) | 9 回 | 12 名 | 幹事・委員参加は除く |
| その他 | 5 回 | 5 名 | 防火管理等 |
| 外部研修 (合計) | 20 回 | 26 名 | |
| 内部研修 | 5 回 | 59 名 | 権利擁護、施設指針 |

6) 地域貢献

(1) 地域貢献

コミュニティショップマンマルーナにおいて、地域団体へ会合スペースを無償にて開放しました。また、月形高校の総合学習の一環として、まちおこしのための商品開発を行う中で、商品メニューのプロデュース、皆楽公園での販売を共同で行いました。2日間で延べ 190 人程の集客があり、参加した高校生にはメニュー立案から販売まで体験していただき、事業所職員のマンパワーや店舗等の環境を資源として地域に貢献することができました。事業所の職員がつぎがたイベント委員や月形消防団、社会教育活動等へ継続的に参加し、地域における事業所としての存在意義を持って各取り組みに参加することが出来ました。

(2) 社会への還元

① 福祉実習

福祉の専門職集団として知識や経験を社会へ還元することを目的とし、専門学校を中心に保育、福祉分野の実習生を受け入れました。新型コロナウイルスの感染状況等を鑑みながら学校担当者と連携を図り受け入れを進めました。大学、専門学校等の福祉実習については、受入要請校および実習生徒数の減少に加え感染症拡大防止から、例年と比較して受入人数及び延べ日数が減少傾向にあります。

② ボランティア

ボランティアに関しては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年受け入れている各団体様より中止の連絡が多く、家族会ボランティアのみの受け入れとなりました。

(表 8 令和 4 年度 福祉実習およびボランティア受け入れ状況)

| (受入れ状況) | 種別(昨年実績) | 人数 | 備考 |
|----------|---------------|-----|----------|
| ① 福祉実習 | 介護関係専門学校(0名) | 0名 | |
| | 保育関係専門学校(4名) | 4名 | こども専門学校他 |
| | 合計 | 4名 | 延べ 39 日間 |
| | カトリック関係団体(0名) | 0名 | |
| ② ボランティア | 学生(6名) | 0名 | |
| | 家族会(10名) | 18名 | 奉仕日 (5回) |
| | 雪の聖母園祭(0名) | 0名 | |
| | 合計(16名) | 18名 | |

7) 会議

4月1日の職員全体会議において園の基本方針や運営計画の確認を行うとともに、それぞれの会議を年間計画の下、定期的実施しました。

(表 5 令和 4 年度 各会議の実施内容)

| 会議名 | 参加者 | 内容 | 回数 |
|---------------|-------------------|---|-----|
| 職員全体会議 | 全職員 | 4月1日開催。園の基本方針や運営計画の確認。 | 1回 |
| 調整会議 | 課長、係長、主任 | 法人経営会議を受け運営方針等の現場での周知ほか、各部署の連絡調整を行う。 | 12回 |
| 各支援会議 | 各支援職員 | 月例会議。入所施設、オプスにおいて利用者支援全般に関する協議及び職員間の意思統一。 | 12回 |
| ケース会議 | 各係支援員 | 月例及び随時。各係での利用者個々のケース検討による支援の質の向上、職員間の意思統一。 | 12回 |
| 給食会議 | 栄養士、委託業者、給食委員、利用者 | 給食の内容に関すること全般について。行事食や特別食に関すること。 | 12回 |
| 利用者会議 職場会議 | 利用者、委員 | 日常生活および作業活動全般に関すること。施設側からのお知らせ等。 | 12回 |
| 虐待防止委員会 | 管理者、課長、係長、看護師、委員 | 利用者の苦情解決や権利擁護に関する取り組み、虐待防止に資する研修会企画運営、参加取りまとめを行う。 | 12回 |
| 防災防犯委員会 | 管理者、課長、係長、栄養士、委員 | 防災防犯に係る情報の周知や訓練、研修、啓発活動の企画運営、備蓄や資機材の選定整備を行う。 | 12回 |
| 感染症予防対策委員会 | 課長、看護師、栄養士、委員 | 事業所内外に係る感染症予防に関する情報の周知や啓発、研修の企画、マニュアルの整備を行う。 | 12回 |

4. 各部署の取り組み

1) 庶務・管理

(1) 施設設備

利用者の方が日常的に快適で安全な生活を送ることが出来るよう、施設および利用者居室等に日常的な使用に伴う劣化、破損については随時修繕を実施した他、経年劣化が著しい、共用部分の鍵交換を行いました。2か年計画の2年目として施設建物屋上防水工事を実施しました。草刈り、除雪など居住環境及び周辺的生活環境の整備に努めました。

(2) 予算の適正執行

サービス区分単位や給付費種別による適正な会計処理を行いました。備品や消耗品の購入、水道・電気・燃料の使用についても無駄のないよう努めました。

走行距離や使用頻度、利用者支援の効率化や安全面への配慮のため車両の入れ替えを行いました。

就労支援における工賃支給額については、492万円(前年度比100%)、総売り上げ2,093万(実習委託費も含む)の約24%の支給をすることが出来ました。

2) 日中活動支援

令和4年度は、日中活動の中でも就労的な活動や軽作業を望まれる方に対しては工賃向上に向けた取り組みを継続した他、通所利用者においても機能維持活動やレクリエーション的な活動を含めた日中活動の提供を行いました。重度者中心の活動においては、機能維持に向けた活動やレクリエーション活動等を中心に実施しました。

コロナ禍における様々なストレス発散を目的とした活動やドライブなどを実施し、日常的な身体活動も併せて取り入れました。

(1) 生活介護 A

A、B棟利用者の方を中心に労働意欲や社会性を養うことを目的とし、オプスや農場での軽作業を中心とした日中活動を提供しました。利用者個別の特性に合わせた活動内容の模索や就労継続B型支援との連携の中で納豆や石鹼の製造、野菜や薪等の生産、委託を受けて実施している公園施設の清掃等を行いました。

(2) 生活介護 B

C棟利用者を中心に機能低下から生産活動への従事が困難である方々に対しては、ゆったりとした日課の中で身体機能維持のためのウォーキングや機能訓練、レクリエーション、音楽活動、創作活動などを提供しました。

3) 就労継続支援 B 型

就労支援センターオプスを活動拠点として、就労継続 B、生活介護の対象者をそれぞれ利用者の意思を尊重し、生産活動を取り組まれる方については工賃向上に向けた作業・実習を提供しました。また、ゆったりとした中で趣味的な日中の活動を希望される方については、それぞれの活動の充実を目指し、個別の活動に重点を置き、やりがいや生きがい、楽しみを感じることが出来るように努めました。

令和 4 年度の就労事業収入は 20,933,983 円（前年比約 105%）となりました。令和 2 年度から続くコロナ禍の影響を受けながら全体的な収入を増加させることができましたが、事業にかかる経費が増えており、利用者工賃を大きく向上させることは出来ませんでした。

(1) 農耕係

令和 4 年度は 361 万円（令和 3 年度 346 万円）売り上げることが出来ました。

野菜については獣害や猛暑の影響を受けながらも昨年度と同程度の生産、販売することができました。薪については継続してアウトドアショップや薪ストーブを利用されている個人客への販売を行いました。

(2) 製造および受託事業

① 納豆製造

令和 4 年度は 545 万円（令和 3 年度 506 万円）で昨年度よりも若干の売り上げ増となりました。資材、原料の価格高騰から、4 月より価格改定を行いました。生産数を大きく減らすことなく販売することが出来たため、売上増につながりました。

② リサイクル石鹸・ボカシ

令和 4 年度は、数量は少ないながらも定期的な製造を行うことが出来ました。一定度の在庫を維持しながらお客様からの注文に対応しました。

③ 工芸・受託加工

手漉きハガキについては受注減から生産を休止しました。刺繍入りエコバッグの制作を継続し、コミュニティーショップマンマルーナの商品として販売しました。

④ 店舗運営

コミュニティーショップマンマルーナについては、令和 4 年度 7,797,794 円（令和 3 年度 7,251,782 円）の売り上げとなりました。新型コロナウイルスの蔓延状況により計画していた催事を中止せざるをえない場面がありましたが、通年での営業の中で昨年度以上の売り上げることができました。町内関係機関との連携を行い、イベントにおいて月形産大豆を使用したカレーパン作成販売等を行い、地

域振興に貢献しました。

⑤ 受託作業

月形町衛生センターにてリサイクル品の選別業務、皆楽公園管理業務の一環としてのトイレ清掃業務、雪の聖母園のリネンや清掃、消毒業務等、企業からの下請け内職業務、月形町内2団体からの花壇整備事業を請け負いました。

月形町内での作業活動は、施設外において社会人としての社会性やスキルが求められるため、参加利用者に対し説明等を行いながら、作業活動に対して責任を持って取り組んでもらうことが出来ました。

⑥ 月ヶ岡農村公園管理業務・自主事業

管理業務について、トイレ清掃や公園内の環境整備等（ゴミ拾い・草刈り・除雪）を作業活動として年度を通して実施しました。自主事業は感染症の影響から1回のみ野菜販売を実施しました。地域の方に花壇整備を協力していただき、景観保持に努めました。

2) 施設入所支援

令和4年度は、5月に高等養護学校卒後の生活環境を求めて入所された方が1名、10月に在宅での生活に困難性を感じ入所された方1名、3月には児童養護施設退所後の生活場所を求めて入所された方が1名、併せて3名の入所がありました。6月には、在宅での生活に切り替えた方が1名、医療機関への移行が1名おり、7月には高齢者施設への移行のため退所された方が1名おりました。9月には誤嚥性肺炎を患い長く医療機関にて逝去された方が1名、グループホームへ移行された方が1名おり、併せて5名の退所がありました。

施設入所生活に関しては、住環境の整備と精神衛生を目的に、継続してすべての利用者に個室にて対応できる体制を整えました。

(1) 余暇活動

余暇活動については、新型コロナウイルス感染防止の観点から、昨年度に引き続き規模の縮小を余儀なくされた状況が続きました。感染症の流行状況を鑑みながら、買い物外出については近郊での対応としました。交流会や雪の聖母園祭等の催事についても、感染防止の観点からご家族や外部の方のお招きは中止し、施設内で楽しめることを企画し、町内業者や法人内他事業所の協力を仰ぎながら催しを開催しました。

旅行についても、例年通りの開催は感染状況の変化への対応が困難であるため、日中活動の中でマイクロバスを利用したドライブツアーを実施しました。また、園内での催しについても利用者から意見を聴きながら、お茶会や軽食、カラオケ、レクリエーション等様々な取り組みを行うことでより多くの方が施設内での余暇活動を楽しむことが出来るよう取り組みました。

(2) 保健・医療

年間2回の総合健康診断を実施しました。日常の健康管理に関しては内科及び精神神経科主治医による月例の診察及び面談のほか、隔月の身体測定の際に看護師が個別面談及び血圧測定を行いました。医師の指示等で定期的なバイタルの測定や排便確認等が必要な方は、個々に記録表を作成し時間を設定して実施しました。また、新型コロナウイルスワクチンおよびインフルエンザワクチン接種については、園内にて月形町保健福祉課および町立病院から医師看護師が派遣され、希望される利用者、職員に実施をしました。

入院に関しては、新型コロナ罹患による体調管理、疾病に伴う体調変化や検査入院等がありました。精神不安定による環境統制のため長期入院の方が1名おりました。

(表6 令和4年度 諸検診の状況)

| 項目 | 医療機関 | 日程 | 対象 | 男 | 女 | 計 |
|--------|---------|-------|------|----|----|----|
| 定期健康診断 | 医療法人明日香 | 6月9日 | 全利用者 | 31 | 20 | 51 |
| | | 2月28日 | | 31 | 19 | 50 |

(表7 令和4年度 科目別通院、入院状況)

| 診療科目(昨年実績) | 実人数 | 入院 | 診療科目 | 実人数 | 入院 |
|-------------|-----|----|-----------|-----|----|
| 内科系(18名) | 20名 | 9名 | 皮膚科系(3名) | 4名 | — |
| 精神神経科系(40名) | 37名 | 1名 | 泌尿器科系(1名) | 3名 | — |
| 外科・整形系(8名) | 5名 | 1名 | 歯科系(2名) | 3名 | — |
| 耳鼻科系(4名) | 4名 | — | 婦人科系(3名) | 3名 | — |
| 眼科系(8名) | 9名 | — | | | — |

※入院延べ日数 計155日(令和3年度 9名504日)

(3) 給食

栄養士が委託業者との窓口となり、月例の給食会議及び給食委員会の中で利用者から食事に関する意見や要望を聞き、給食内容の改善や要望事項の食事内容への反映に努めました。また、栄養士が利用者の心身の状況に関する情報を看護師、支援員と共有することで、誤嚥予防や減塩、低カロリー等の各種特別食を適切に提供しました。

月に1度の誕生日お祝い食、ご復活やクリスマスなどの行事食やゴールデンウィークやお盆、お正月等には季節感を感じていただけるよう季節やイベントに合わせたメニューを提供しました。

3) 短期入所・日中一時支援事業

短期入所は年度を通して6名の方17日間の利用がありました(昨年度実績3名33日間)。介護負担軽減のみでなく、入所施設の体験、高等養護学校生徒の現場実習としてご利用をいただきました。近隣においても新型コロナウイルス感染症が断続的に発生しており、年度を通して利用が少なく、依然として利用日数減少に至りました。日中一時支援事業については利用がありませんでした。

(別紙)

令和4年度 障がい者支援施設雪の聖母園 運営概況

令和 5年 3月31日現在

1)職員の状況

| 管理者 | 課長 | 係長 | 主任 | サービス管理責任者 | |
|-----|-----|-------|-------|-----------|-----|
| 1 | 3 | 3 | 4 | 2 | |
| 看護師 | 栄養士 | 生活支援員 | 職業指導員 | 管理員・事務員 | リネン |
| 1 | 1 | 39 | 1 | 3 | 3 |

2)各事業利用者の状況

・各事業利用者数

| | 在宅 | GH | 入所 | 計 |
|------|----|----|----|----|
| 就労B | 6 | 18 | 5 | 29 |
| 生活介護 | | 10 | 44 | 54 |
| 合計 | 6 | 28 | 49 | 83 |

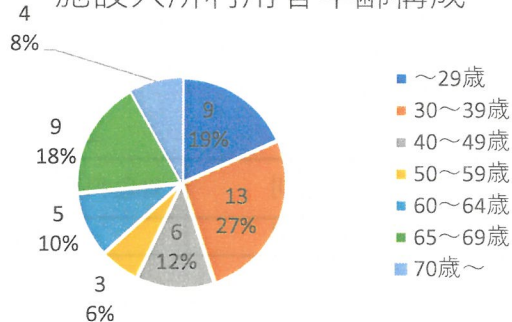
・各事業利用者支援区分

| 支援区分 | 就労継続B型 | 生活介護 | 入所支援 |
|--------|--------|------|------|
| 支援区分なし | 1 | | |
| 1 | | | |
| 2 | 8 | | |
| 3 | 10 | 2 | 4 |
| 4 | 8 | 18 | 16 |
| 5 | 2 | 24 | 20 |
| 6 | | 10 | 9 |
| 平均支援区分 | 3.1 | 4.7 | 4.7 |

・平均年齢

| | 男性 | 女性 | 合計 |
|--------|-------|-------|-------|
| 生活介護 | 44.0歳 | 56.6歳 | 48.9歳 |
| 就労継続B型 | 55.3歳 | 63.3歳 | 58.0歳 |
| 施設入所 | 43.7歳 | 56.6歳 | 48.2歳 |

施設入所利用者年齢構成

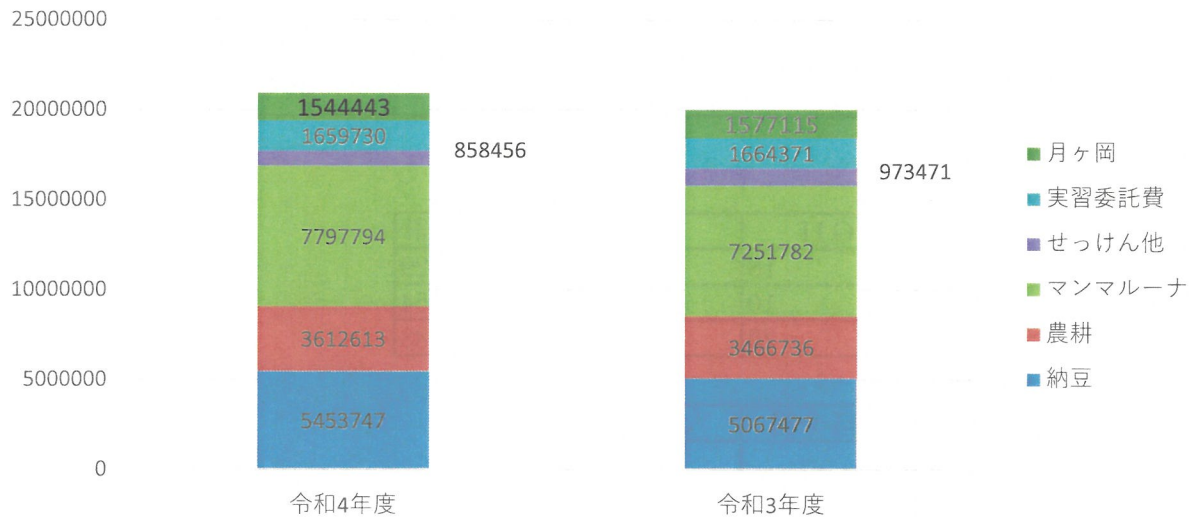


3)就労支援事業収入

令和4年度 就労支援事業収入

| | マンマルーナ | EMボカシ | 工芸 | 農耕 | 印刷 | 石鹸 | 納豆 | びゅうらくら | 月ヶ岡 | 小計 | 実習委託費 (就労B) | 合計 |
|-----|-----------|--------|--------|-----------|--------|---------|-----------|---------|-----------|------------|----------------|------------|
| 4月 | 562,983 | 1,500 | 4,460 | 102,202 | 2,400 | 6,200 | 445,790 | 55,200 | 0 | 1,180,735 | 127,008 | 1,307,743 |
| 5月 | 661,861 | 2,100 | 3,000 | 160,967 | 2,400 | 10,645 | 547,221 | 56,200 | 750,000 | 2,194,394 | 140,685 | 2,335,079 |
| 6月 | 497,118 | 1,000 | 520 | 109,717 | 2,400 | 3,860 | 444,539 | 40,450 | 6,666 | 1,106,270 | 154,508 | 1,260,778 |
| 7月 | 427,090 | 2,000 | 4,460 | 124,859 | 2,400 | 8,463 | 481,374 | 79,900 | 5,339 | 1,135,885 | 145,679 | 1,281,564 |
| 8月 | 529,359 | 200 | 1,280 | 212,473 | 2,400 | 12,160 | 505,701 | 31,600 | 6,552 | 1,301,725 | 144,654 | 1,446,379 |
| 9月 | 921,752 | 6,600 | 1,140 | 239,850 | 2,400 | 13,850 | 500,256 | 39,900 | 10,837 | 1,736,585 | 159,391 | 1,895,976 |
| 10月 | 463,469 | 800 | 3,200 | 1,018,100 | 2,400 | 13,558 | 486,502 | 62,200 | 756,314 | 2,806,543 | 131,183 | 2,937,726 |
| 11月 | 554,358 | 0 | 2,500 | 836,318 | 2,400 | 14,740 | 450,570 | 54,900 | 4,947 | 1,920,733 | 92,485 | 2,013,218 |
| 12月 | 721,852 | 0 | 2,500 | 256,769 | 2,400 | 8,160 | 436,614 | 81,600 | 3,788 | 1,513,683 | 135,129 | 1,648,812 |
| 1月 | 558,903 | 0 | 1,320 | 235,094 | 2,400 | 5,330 | 363,874 | 53,800 | 0 | 1,220,721 | 88,400 | 1,309,121 |
| 2月 | 486,749 | 6,400 | 740 | 178,685 | 2,400 | 6,710 | 374,862 | 47,500 | 0 | 1,104,046 | 197,385 | 1,301,431 |
| 3月 | 1,412,300 | 400 | 2,720 | 137,579 | 2,400 | 7,690 | 416,444 | 73,400 | 0 | 2,052,933 | 143,223 | 2,196,156 |
| 合計 | 7,797,794 | 21,000 | 27,840 | 3,612,613 | 28,800 | 111,366 | 5,453,747 | 676,650 | 1,544,443 | 19,274,253 | 1,659,730 | 20,933,983 |

就労支援事業収入対比表



2022年度 20,933,983円

2021年度 20,000,952円

4) 利用者工賃

工賃支給内訳

| サービス種別 | 対象利用者 | 支給額 | 平均工賃 (月額) |
|--------|-------|-----------|-----------|
| 就労継続B型 | 30 | 4,922,980 | 13,985 |

令和4年度指定共同生活援助（介護サービス包括型）事業所さくら

事業報告

1. 概要

令和4年度は、継続して新型コロナウイルス感染の影響もありましたが、様々な行事や研修等を zoom といったオンラインを中心としていきながら、内容によって対面を併用としたハイブリッド式で参加していました。利用者の方達に関しても感染状況を鑑みながら外出範囲の拡大や外泊制限の緩和していき、支援を行ないました。

また、日中活動の取り組み方や余暇支援・行事に関して、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、昨年度と同様にグループホームや施設敷地内で取り組めるような行事を模索し、感染防止に配慮しながら支援を行ないました。

グループホームから単身生活へステップアップを目指す利用者について、今年度は移行の実施はありませんでしたが、その都度本人の意向に合わせて必要な情報提供や援護市町村への相談等の支援を行っています。今年度は、3名の方が退所していますが、1名の方がご自宅から措置入院を経て5月にグループホームへ入所されました。また、もう1名の方が雪の聖母園より1月の体験利用を経て、2月にグループホームへ入所されました。

その他、虐待防止委員会、リスクマネジメント委員会、感染症予防委員会、防災・防犯委員会の会議を開催し、情報の共有や事例検討を行い職員会議にて周知情報の共有と支援を行いました。又、外部への研修参加については zoom を導入したオンラインでの研修に参加し、職場内研修では3密にならないよう数回に分けて権利擁護・虐待防止や災害時対策・防犯意識に対し職員間で共通認識を持ち支援に取り組めるよう努めました。

2. ホームの現況 家賃補助1名につき10,000円支給 全29名(男性ホーム3女性ホーム2)

| ホーム名 | 定員/現員 | 平均年齢 | 平均区分 | 支援区分分け |
|----------------|-------|-------|------|--------------------------------|
| 1. さくら (女性) | 6/6 | 60.5 | 3.5 | 区分3…4名 区分4…1名 区分5…1名 |
| 2. メロン (男性) | 7/7 | 56.4 | 3.6 | 区分2…1名 区分3…3名 区分4…1名 区分5…2名 |
| 3. ぼてと (男性) | 6/6 | 56.8 | 3.5 | 区分2…1名 区分3…2名 区分4…2名 区分5…1名 |
| 4. すみれ (女性) | 7/5 | 58.6 | 5.4 | 区分4…1名 区分5…1名 区分6…3名 |
| 5. すいか (男性) | 6/5 | 47.6 | 4.6 | 区分3…1名 区分4…1名 区分5…2名 区分6…1名 |
| 全体平均 | | 55.98 | 4.12 | |

◎日中活動への参加状況

- ・生活介護 10名 ・就労継続B 18名 ・就労継続A 1名
- ・地域活動支援センター3名（内他のサービスと併用3名）

（令和5年3月末日現在）

※（資料1）「令和4年度利用者の状況等」参照

3 職員体制

| | 常 勤 | | 非常勤 | | 計 |
|-----------|-----|-----|-----|-----|----|
| | 専 従 | 兼 務 | 専 従 | 兼 務 | |
| 管理者 | | 1 | | | 1 |
| サービス管理責任者 | 1 | | | | 1 |
| 生活支援員 | 7 | 2 | 1 | | 10 |
| 世話人 | | | 6 | | 6 |
| 看護師 | | | 1 | | 1 |
| 合 計 | 8 | 3 | 8 | | 19 |

（令和5年3月末日現在）

4 会議・研修

令和4年度は定例で事業所職員会議について新型コロナウイルス感染防止に努めながら月に1度実施しました。会議の内容につきましては、業務運営に関わる引継ぎ・報告、利用者の個々のケースにおける支援内容の確認・検討等多岐に渡り取り組んでまいりました。また、研修についてもzoom や e ラーニングといったオンラインを中心に状況をみながら対面式での研修参加を行っています。

（1）会議

| 名 称 | 開催日 | 会議の内容 | 構成員 | 開催回数 |
|-------------|-----------|---------------------|------------|------|
| 地域支援部会議 | 月1回定例 | 運営・利用者支援全般に関する事項の協議 | 全職員 | 12回 |
| ケース会議 | 職員会議時 | ケースの課題検討 | 各担当 | 12回 |
| 個別支援計画・評価会議 | 半期定例の他、随時 | 個別支援計画の評価及び作成に関する検討 | サビ管・ケース担当者 | 2回 |

（2）研修参加

関係団体等が主催する研修に16回、述べ18名の職員が参加しました。

| | 研修・参加行事名 | 月 日 | 開催地 | 人数 |
|---|--|-------|-----|----|
| 1 | 令和4年度 職員研修会（オンライン） 主催：空知知的しょうがい福祉協会 | 6月16日 | 月形 | 2名 |

| | | | | |
|----|--|--|----|----|
| 2 | 令和4年度 全道施設長セミナー (オンライン) 主催:一般社団法人北海道知的障がい福祉協会 | 6月30日 | 月形 | 1名 |
| 3 | 令和4年度 北海道知的障がい関係支援員研修 (オンライン) 主催:一般社団法人北海道知的障がい福祉協会 | 7月13日 | 月形 | 1名 |
| 4 | 令和4年度 全国知的障害関係施設長等会議 主催:公益財団法人日本知的障害者福祉協会 | 7月14日 ~7月15日 | 東京 | 1名 |
| 5 | 令和4年度 権利擁護セミナー (オンライン) 主催:一般社団法人北海道知的障がい福祉協会 | 7月28日 | 月形 | 1名 |
| 6 | 令和4年度 保健医療部会・栄養士調理員部会 合同研修会 (オンライン) 主催:空知知的しょうがい福祉協会 | 8月18日 | 月形 | 1名 |
| 7 | 令和4年度 第33回全国グループホーム等研修会 (オンライン) 主催:公益財団法人日本知的障害者福祉協会 | 8月26日 | 月形 | 1名 |
| 8 | 令和4年度 集団指導及び感染症予防研修会 (オンライン) 主催:北海道空知総合振興局 | 10月6日 | 月形 | 1名 |
| 9 | 令和4年度 北海道サービス管理責任者更新研修 (eラーニング・オンライン) 主催:特定非営利活動法人北海道地域ケアマネジメントネットワーク | eラーニング 12月2日~8日 Zoom研修 12月21日 | 月形 | 1名 |
| 10 | 第三者委員意見交換会 (オンライン) 主催:空知知的しょうがい福祉協会 | 2月3日 | 月形 | 1名 |
| 11 | 医療・介護従事者のための新型コロナウイルス感染予防講座 (オンライン) 主催:北海道医師会 | 2月23日 | 月形 | 1名 |
| 12 | 令和4年度 全道施設長研修会 主催:一般社団法人北海道知的障がい福祉協会 | 2月24日 | 札幌 | 2名 |
| 13 | 令和4年度 相談支援従事者研修 (サービス管理責任者/児童発達支援管理責任者向け研修) (オンライン) 主催:特定非営利活動法人北海道地域ケアマネジメントネットワーク | eラーニング 3月2日 ~3月17日 (視聴期間) | 月形 | 1名 |
| 14 | 令和4年度 福祉施設職員等スキルアップ研修会 (オンライン) 主催:社会福祉法人月形町社会福祉協議会 地域福祉ネットワーク推進協議会 | 3月17日 | 月形 | 1名 |

| | | | | |
|----|--|-----------------|----|----|
| 15 | 2022年度 北海道サービス管理責任者研修（基礎研修） （オンライン） 主催：特定非営利活動法人きなはれ | 3月23日 ～3月24日 | 月形 | 1名 |
| 16 | 社会福祉施設等における虐待防止の取組推進研修会 （オンライン） 主催：北海道空知総合振興局 | 3月25日 | 月形 | 1名 |

5 利用者支援

（1）生活支援

① 健康管理

加齢に伴う高血圧や嚥下障害等の疾患から、身体機能の低下が年々顕著となっており、肺炎や糖尿病といった疾病に関しても重篤になりやすく入院加療の必要性がある等、利用者への支援度合は増加しています。新型コロナウイルスの感染防止に伴い、利用者の方の状態に変化がなければ病院には職員が報告へ行き内服薬等を処方して頂いたり、感染防止に努めながら支援をしていました。口腔衛生についても月形町内だけではなく近隣市町村の感染情報を鑑みながら歯周病治療や義歯製作等への通院支援を行なっていました。年1回の健康診断を行い利用者の健康管理に努めました。

今後も継続して持病等から血圧測定や体温測定等を必要とする方々の情報の共有を行ない、日常的な体調の変化に配慮し、安心して生活することが出来るような環境の提供に努めていきます。

感染症予防対策については、委員会での情報や保健センターからの感染予防ネット情報やIP電話での新型コロナウイルス情報・空知総合振興局や北海道HPの感染予防情報を基に、会議で必要な情報を職員に周知徹底し、利用者の方々への手洗い・うがい・アルコール消毒の励行、1日2回の検温実施、外出・通院時でのマスクの着用等配慮し支援を行ないました。今年度は日中活動場所から利用者の方々へ新型コロナウイルス感染が蔓延し、各GHでも感染拡大していましたが、無事3週間程度で収束されています。

② 食生活

食材配達業者を活用しながらホームごとに利用者の嗜好や健康状態、季節の食材や行事食等にも配慮し「楽しめる」食事の提供、日中活動参加時の昼食と食事の内容重複に配慮し、栄養面が偏らない食事提供を心掛けながら支援しました。また、昼食提供があるオプスや地域活動支援センター担当者との連携に努めながら、加齢に伴う咀嚼・嚥下障害にも留意し、調理方法の工夫や提供環境の改善（一口大、刻み）等を行い、安全で楽しい食事環境の提供に努めました。

③ 日中活動

就労支援センターオプス、月形町活動支援センターむう〜ん、NPO法人サトニクラスの活動にスムーズに参加できるよう、事前連絡による支援内容の確認や、連絡ノートを活用して連携を密にして関わりの統一に努めました。通院や外泊に伴う日中活動への参加・

不参加、食事の有無等の連絡が遅れてしまう場面が見られた為、各支援員間での連絡調整を徹底していきたいと思います。

④ 余暇支援

休日の外出について、今年度は新型コロナウイルスの感染に配慮し、月形町内や近隣市等へ外出されてきました。また、外出先での軽食を避けテイクアウト購入をすることで感染予防に努めています。地域行事（町内行事、お祭りなど）については今年度も開催できず中止となっています。施設内行事（レクリエーション交流会・雪の聖母園祭・クリスマス会等）の企画について、感染予防に努めながら規模を縮小して開催しています。旅行については、今年度も宿泊を伴った旅行は難しく、日帰り小旅行を日中活動内で実施しています。また、GW・お盆・正月等の期間についてはテイクアウトを中心としたイベント食の計画をし、実施しました。

行事・利用者研修等

| | 研修・参加行事名 | 月 日 |
|---|--------------|-------------|
| 1 | ご復活の主日イベント | 4月17日 |
| 2 | GW イベント | 5月3日～5日 |
| 3 | レクリエーション交流会 | 6月28日 |
| 3 | 地域七夕会 | 8月7日 |
| 4 | 夏期作業休止期間イベント | 8月11日～15日 |
| 5 | 雪の聖母園祭 | 9月23日 |
| 6 | 地域クリスマス会 | 12月23日 |
| 7 | 年末年始イベント | 12月29日～1月3日 |
| 8 | 節分イベント | 2月3日 |

6 防災・安全

各ホームの避難訓練を消防署立会いも含め、4回実施しました。

昨年度と同様に岩見沢地区消防事務組合月形支署の方達と相談を行ないながら「新北海道スタイル」を取り入れ、感染防止に努めながら訓練・研修を実施しました。

避難・通報訓練、防犯研修

| | 実施日 | 内容 | 訓練状況 |
|---|-------|-------------------|-------|
| 1 | 9月19日 | 火災想定GH避難訓練・通報訓練 | 消防立合い |
| 2 | 12月3日 | 自然災害避難訓練（地震） | 自主訓練 |
| 3 | 2月5日 | 自然災害訓練（水害）（DVD上映） | 自主訓練 |
| 4 | 3月21日 | 火災想定GH避難訓練 | 自主訓練 |

令和4年度 共同生活援助事業所さくら 通院記録(件数)

| | 病院名 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|----|----------------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| 1 | 月形町立病院内科 | 11 | 10 | 8 | 15 | 7 | 13 | 27 | 9 | 9 | 10 | 11 | 9 | 139 |
| 2 | 月形町立病院整形外科 | 3 | 5 | 6 | 2 | | | 3 | | 2 | | 5 | 2 | 28 |
| 3 | 月形町立病院眼科 | | | 1 | 4 | | | 1 | 1 | | | 1 | 1 | 9 |
| 4 | 月形町立病院皮膚科 | 2 | 1 | 3 | 4 | | 2 | | | | | | 7 | 19 |
| 5 | 岩見沢市立病院メンタルヘルス | 8 | 7 | 15 | 10 | 10 | 14 | 9 | 7 | 15 | 6 | 8 | 13 | 122 |
| 6 | 岩見沢市立内科 | | | | | | 1 | | | | | 1 | | 2 |
| 7 | 岩見沢市立眼科 | | | | 1 | | | | | | | | | 1 |
| 8 | 岩見沢市立泌尿器科 | 3 | | | 3 | | | 3 | | 1 | 1 | | | 11 |
| 9 | 岩見沢市立脳神経外科 | | | | | | 1 | | | | | | | 1 |
| 10 | 岩見沢市立婦人科 | 1 | 1 | | | | | | | | | | | 2 |
| 11 | いとう耳鼻科 | | 2 | | | | 2 | | 2 | | 4 | | 2 | 12 |
| 12 | 山崎歯科 | 2 | 4 | 7 | 7 | 3 | 4 | 8 | | 2 | 3 | 10 | 10 | 60 |
| 13 | 札医大 | | 1 | | | | | | 1 | | | | | 2 |
| 14 | よしむら糖尿病クリニック | 1 | 1 | 3 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 14 |
| 15 | はた形成外科クリニック | 1 | | | | | | | | | | | | 1 |
| 16 | 砂川市立病院精神科 | | | 1 | 1 | | | 1 | 1 | | | | 1 | 5 |
| 17 | 岩見沢脳神経外科 | 2 | 1 | | 1 | | 3 | | | | | | | 7 |
| 18 | 天使病院 | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 19 | レディースクリニック | | 1 | | | 1 | 1 | | | 1 | | 1 | | 5 |
| 20 | 倉増整形外科 | | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| 21 | 宮本泌尿器科 | | | | | 2 | | | | | | | | 2 |
| 22 | 北翔会病院整形外科 | | | 1 | 2 | | | | | | | | | 3 |
| 23 | エスト皮膚科クリニック | | | | | | | | | | | 1 | 2 | 3 |
| 24 | にしざわ耳鼻咽喉科 | | | | 1 | | | | | 1 | | 1 | | 3 |
| 25 | 空知病院 | | | | 1 | | | | | | | | | |
| 26 | ほさか眼科 | | | | | | | 1 | 3 | 4 | 1 | | 1 | 10 |
| | 合計 | 34 | 34 | 45 | 53 | 24 | 42 | 55 | 25 | 35 | 27 | 41 | 49 | 463 |

令和4年度 指定相談支援事業所「ビンクルム」事業報告

1 事業

令和4年度、指定相談支援事業所「ビンクルム」では、障がいのある方々がより安全に、より安心して生活していけるよう支援をしています。日常生活で困ったことや難しいことがあった場合には、各関係機関との情報共有を行ない、当事者の方やご家族とコミュニケーションを図って、ご本人の希望される生活に少しでも近づけるようにサポートを行ないました。

新型コロナウイルスの感染症予防対策から、計画相談に係るモニタリングについて、電話でのモニタリングのみ受け付けている事業所が多くみられました。徐々にではありますが、感染症の症状変化や感染対策の普及から、ご家族や事業所の皆さんと連携し直接お会いして面談を実施できる機会が増えていきました。モニタリングの際には、利用者の方々の思っていることを話しやすい雰囲気作りに努め、ご本人に適したサービス利用や必要に応じたサービス変更につながるように柔軟な対応を心がけて支援を行ないました。

2 対象者

月形町・岩見沢市・夕張市にお住まいの方々を対象に、月形町にお住まいの方を優先して相談事業にあたりました。計画相談に係るサービス等利用計画、またモニタリング報告書の作成に関しては、上記3市町以外にお住まいの方についても、近隣の相談支援事業所への引き継ぎも合わせて必要な対応を行ないました。

3 運営内容

(1) 基本相談（月形町委託相談事業）

令和4年度も同様に月形町内にお住まいの障がいのある方、またはご家族からの相談に携帯電話にて24時間、365日受付が出来るよう体制を整えました。単身またはご夫婦でお住まいの利用者の方からの相談が中心で、行政手続きや日常生活での緊急的な対応(利用者の方の転倒による怪我の対応・各種手続き・医療機関対応・福祉サービス利用準備、遺失物等横領疑いへの対応、通販支払滞納への対応)、人間関係での相談、電子機器の使用方法確認など多岐にわたり支援を行ないました。

(2) 指定特定・児童

新型コロナウイルスの動向に注視しながら、実施対象区域（月形町・岩見沢市・夕張市）を中心として、土日祭日を除く平日（12月29日から1月3日休業）に計画相談を行ないました。営業時間は午前9時から午後5時までとし、計画通り実施致しました。また上記実施区域以外の近隣地域でも、必要に応じて計画相談を行ないました。児童についての実績はありませんでした。

(3) 指定一般

令和4年度の地域定着支援について、実績はありませんでした。地域移行支援については、同法人内ではありますが、施設入所支援を利用されている方の共同生活援助事業所移行対応をして

います。今後も施設や病院から自立して生活を希望する方がいた場合は病院や施設と密に連携を図り、地域で安心して生活していけるようにサポートしていきたいと考えています。

3 実績

(1) 月形町委託相談事業

①対象者の状況

主に現在単身で生活されている方、またはご夫婦で生活されている方からの相談を受けました。年齢を重ねてきていることによる認知面の低下、また身体面での低下が見られる方もおり、居宅介護で支援をされる居宅介護事業所や日中活動の支援をされる就労支援事業所、行政等と情報共有を行ないました。また月形町外在住者からの相談について行政側より利用者の方の情報をいただき、当事業所で対応することや月形町の関係機関より、障がい福祉サービスの利用希望の方のお話を伺い、利用に係るサービス等利用計画案の作成等を行ないました。障がいのあるお子様、またはご家族からの相談はありませんでした。

<相談を受けた人数>

| | 実人数 | 知的 | 精神 | 身体 | その他 |
|-----|-----|----|----|----|-----|
| 障害者 | 17 | 13 | 3 | 0 | 1 |
| 障害児 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 計 | 17 | 13 | 3 | 0 | 1 |

②相談方法とその内容

相談方法については、ご自宅や日中活動事業所に訪問をしてお話を伺うことが多く、訪問の際にはマスクの着用や手指消毒等の新型コロナウイルス感染症予防を継続し対応しています。電話での相談やご本人に同行しての通院や行政、銀行での手続き等も多く見られています。

相談内容については、家計・経済についての相談が最も多く、生活費、家賃、公共料金の支払い、お小遣い等の金銭面での相談、サポートを主に行なう等の手厚い支援を行なっています。また、福祉サービスや健康・医療についての相談も多く見られ、各所関係機関と情報共有を行ないながら対応しています。

<相談方法> 計 506 件

| | 訪問 | 来所 | 同行 | 電話 |
|----|------------|---------|----------|------------|
| 件数 | 260(51.3%) | 2(0.3%) | 50(9.8%) | 134(26.4%) |

| | | | | |
|----|----------|---------|----------|----------|
| | メール | 会議 | 関係機関 | その他 |
| 件数 | 20(3.9%) | 0(0.0%) | 29(5.7%) | 11(2.1%) |

<相談内容> 計 506 件

| | | | | |
|----|-----------|------------|-----------|----------|
| | 福祉サービス | 健康・医療 | 社会参加 | 権利擁護 |
| 件数 | 88(17.3%) | 84(16.6%) | 2(0.3%) | 2(0.3%) |
| | 家族・人間 | 家計・経済 | 就 労 | 生活技術 |
| 件数 | 20(3.9%) | 193(38.1%) | 11(2.1%) | 21(4.1%) |
| | 情緒 | 障がいの理解 | その他 | |
| 件数 | 4(0.7%) | 1(0.1%) | 80(15.8%) | |

(2) 指定特定・児童

①対象者の状況

すでに障がい福祉サービスを受けている方の計画相談、新規で障がい福祉サービスを利用される方、また高等養護学校を卒業した方、ご自宅で引きこもりしばらくの間サービス利用をされていなかった方、身体に障がいのある方、一度一般就労したものの上手くいかず福祉サービスを希望される方に対し、計画を作成しモニタリングを行ないました。昨年に比べ、サービス等利用計画件数、モニタリン件数が増加していますが、児童の方に対しての計画、モニタリング作成はありませんでした。

<援護者別実施件数>

| | | | | | |
|-----------|-------|--------|-----|---------|---------|
| | 月形町 | 岩見沢市 | 札幌市 | 空知管内(市) | 空知管内(町) |
| サービス等利用計画 | 18 | 29 | 23 | 26 | 15 |
| モニタリング | 40 | 67 | 59 | 76 | 17 |
| | 道内(市) | 道内(町村) | 道外 | 合計 | |
| サービス等利用計画 | 19 | 15 | 7 | 152 | |
| モニタリング | 40 | 36 | 1 | 336 | |

<福祉サービス種別実施件数>

| | | | | |
|--|------|----|---------|----------|
| | 施設入所 | GH | 在宅(単身者) | 在宅(家族同居) |
|--|------|----|---------|----------|

| | | | | |
|-----------|-----|-----|----|----|
| サービス等利用計画 | 57 | 63 | 8 | 24 |
| モニタリング | 98 | 176 | 24 | 38 |
| | 計 | | | |
| サービス等利用計画 | 152 | | | |
| モニタリング | 336 | | | |

②作成費

モニタリング・サービス等利用計画の作成件数が共に前年度と比較し増加しています。それにより作成費収入が前年より増加しました。

<作成回数と収入>

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 |
|----------|---------|-----------|-----------|---------|---------|
| 計画作成件数 | 13 | 16 | 6 | 15 | 13 |
| モニタリング件数 | 15 | 17 | 31 | 20 | 28 |
| 作成費収入 | 466,850 | 550,440 | 591,190 | 579,130 | 669,220 |
| | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 |
| 計画作成件数 | 12 | 37 | 7 | 7 | 5 |
| モニタリング件数 | 44 | 13 | 17 | 39 | 27 |
| 作成費収入 | 897,780 | 866,590 | 386,940 | 728,440 | 509,730 |
| | 2月 | 3月 | 合計 | | |
| 計画作成件数 | 8 | 13 | 152 | | |
| モニタリング件数 | 29 | 56 | 336 | | |
| 作成費収入 | 589,040 | 1,102,160 | 7,937,510 | | |

*前年対比 111.0% (昨年7,149,600)

4 研修

新型コロナウイルス感染症予防対策の普及により、対面形式での研修・セミナーの機会が増えました。オンラインでの研修が続いてきた中、対面形式でのタイムラグのない研修や会

場での事業所間での交流の良さを再認識している皆さんが多かった印象です。

| | 研修名 | 主催 | 月 日 | 開催方法 | 人数 |
|---|-------------------------------------|-----------------------------------|---------------------------------------|-------------------|----|
| 1 | 令和4年度 障害支援区分 認定調査員研修 | 北海道空知総合振興局 | 6/21 | 対面方式 | 1 |
| 2 | 令和4年度 相談支援従事者研修 (初任者研修) | 特定非営利活動法人 北海道 地域ケアマネジメントネットワーク | 8/8～11/2 <small>前期・中期・後期開催</small> | eラーニング Zoom | 1 |
| 3 | 令和4年度 全道知的障がい 関係職員研究大会 | 北海道知的障がい福祉協会 | 11/8～11/9 | 対面方式 | 1 |
| 4 | 令和4年度 相談支援・就労支援 セミナー | 日本知的障害福祉協会 相談支援部会 | 12/8～12/21 | オンデマ ンド配信 | 1 |
| 5 | 令和4年度 全道施設長研修会 | 北海道知的障がい福祉協会 | 2/24 | 対面方式 | 1 |
| 6 | 令和4年度 北海道災害派遣 福祉チーム(DWAT)チーム登録研修 | 北海道保健福祉部 福祉局地域福祉課 | 2/9 | オンライン 研修(Zoom) | 1 |

5 その他

・障がい支援区分認定調査につきまして、月形町から1名、札幌市から7名、稚内市から1名、上士幌町から1名、士別市から1名の調査依頼があり実施しました。

・同法人の「ライフネットゆうばり」で行なう「生活困窮者自立支援事業」との連携については、面談・同行を含め対応しており、サービスの利用や就労のみならず生活についての相談を受けて支援を随時行なっています。

令和4年度

月形町認定こども園花の里こども園 事業報告

1.運営概況

令和4年度は、55名で始まり、3月には72名となり、順調に利用数が増えました。特に0,1,2歳児クラスの利用が多く、子育て支援を利用した保護者や、出張子育て支援で職員と顔を合わせたことで、安心して預けてくれる家庭が増えたと考えられます。月形町は、0歳から保育料無償化を実施しているため、保護者にとっては、入園を積極的に考えるきっかけとなっているようです。

新型コロナウイルスでは、夏に集団感染があり、3日間の休園を余儀なくされました。その後も陽性確認はしばしばありましたが、重症化等の例はなく過ぎしてまいりました。行事等は中止になったものもありましたが、年度後半では、園外保育や卒園式での来賓招待など例年通りに戻すことができた場面もありました。3月末には、RSウイルスという乳幼児特有の感染症が増え、全体の半数近くが罹患するということがあり、コロナに限らず様々な感染予防の大切さを感じております。

2.園児の状況

《月別在籍数》

0,1,2歳児の途中入園が増え、例年にないほど利用者数が増えました。町外からの利用希望もあり対応してきました。

| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|--------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 0,1,2歳児 (内特別支援) | 21 | 24 | 25 | 27 | 28 | 29 | 30 | 32 | 31 | 32 | 32 | 35 |
| 3,4,5歳児 (内特別支援) | 37 (2) | 37 (2) | 37 (2) | 37 (2) | 37 (2) | 37 (2) | 38 (2) | 38 (2) | 38 (2) | 38 (2) | 37 (2) | 37 (2) |
| 在籍合計 | 58 | 61 | 62 | 64 | 65 | 66 | 68 | 70 | 69 | 70 | 69 | 72 |

定員 80名

3.職員状況

3歳未満児の途中入園が多く、産休に入る職員もいたため、年度途中で保育士募集を行いました。応募はありませんでしたが、10月11月と町内在住の有資格者をパートではありますが、タイミングよく採用することができました。保育士の虐待やこども園保育園でのバスの置き去り事故など取りざたされる中、保育士の精神面でのサポートを重要視し、休憩時間はもとより、保育準備や記録時間などの確保ができるよう勤務割を行ってきまし

た。残業をすることもあるため、効率よく仕事ができるようになればさらに良いと考えております。

《職員体制》合計 21 名（3 月 31 日時点）

保育士…正職員 9 名（主任含む）、パート 9 名

他…子育て支援員（英語教諭・パート）1 名、環境管理（パート）1 名、園長

《産休、育休》1 名（8 月 17 日～）

《採用》10 月 1 日付：パート保育士 1 名、11 月 1 日付：パート保育士 1 名（農閑期）

《健康診断》・定期健診 6 月 9 日 ・腰痛検査 2 月 28 日（札幌健診センター）

4. 保育状況（クラス総括より）

（1）0,1 歳児ちゅうりっぷ組

年度途中で低月齢の児が入園することが多く、クラスのお遊びの様子を見極め、高月齢の児が、あそびに物足りなさを感じていないかなど環境を常に話し合いながら、上のクラスに移行することを行なってきました。高月齢の児は、上のクラスに移行することにより、集中してあそぶ姿に変わっていきました。

（2）1,2 歳児すずらん組

下のクラスから移行してくることにより、人数が多くなっていきましたが、高月齢と低月齢でグループを分けて、お集まりやお遊びを行うことで、低月齢のグループは全体的に落ち着いて、意欲的にあそびに集中することができていました。高月齢児のグループには多動傾向の児がいることで、集団をうまく進められないといった担当の悩みもありました。補助が入ることで落ち着くこともありましたが、2 歳～3 歳という年齢では、多動傾向なのか、単なる自我肥大なのかの見極めが難しいところではありました。年度終わり頃には、月形町が委託している臨床心理士に相談することで、関わり方のアドバイスをいただき、実践してきました。

（3）3 歳児こすもす組

8 名という少ないクラスで、全盲児がいるため、2 名の保育士が配置されており、とても落ち着いて過ごすことができていました。全盲の児も独歩はできないものの保育士と手をつないで歩けるようになるまで成長しています。

クラス全体では、人数が少ないため、上のクラスとの異年齢の関わりが多く、様々な言葉やお遊びを獲得している反面、乱暴な言葉遣いなどもありトラブルに発展することもあるので、個別や全体を通して伝えてきました。

(4) 4歳児ばら組

全体的にあそびに集中して落ち着いて過ごしているクラスでしたが、多動傾向のある児の他害やトラブルが多くなっており、周りの子はその児に対してトラブルの原因を決めつけるようなこともあり、人間関係にも留意をしてきました。多動傾向のある児には、個別で関わることで、理解を促すように配慮し、知的に難しいと感じたことは、全体とは違う活動を用意することで、意欲的に取り組むことができてきました。クラス全体で見ると子どもたちの心身の発達とその児の発達との差が開いていく様子が明らかになり、保護者に話をしてきました。就学前の大切な時期ということを見据え、保護者と思いを共有し、関係機関につなげることができました。そのことで、その児の保護者の関わり方も変わり、本児の姿も落ち着いてきたと感じています。落ち着いてきたことにより、他児との関係も改善してきているように見受けられます。

(5) 5歳児ひまわり組

全体的に意欲的に取り組む姿が見られてはいましたが、難しい活動になるとあきらめたり、気持ちが崩れる姿が多く見られ、意欲的に取り組むことができるよう関わりを工夫してきました。年長だけが行える活動や行事を経験していく中で、生活にメリハリができ、家庭でも、お友だちとの関わりの中でも、よい面が見えてきました。クラス11名中10名が月形小学校へ就学するため引継ぎでしっかり伝えてきました。

(6) 保育活動

毎日のリズムあそびの積み重ねで、しなやかでたくましい体づくりを目指してきました。1,2歳児クラスでも、リズムあそびに加え、わらべうたなど歌あそびを通し、喜んで体を動かす姿が見られました。

えいごのじかんでは、先生から習った簡単な英文を覚え、事務室に積極的に聞かせに来てくれる姿も多く見られました。年長児は小学校での英語授業にも違和感なく進んでいけると考えられます。

和太鼓活動は、保育士で進めてきましたが、コロナ対策のため、講師に来ていただく回数が少なくなっていました。次年度は、講師に来ていただく回数を増やし、より力を入れていきたいと考えております。

5. 行事

今年度もコロナ禍になってからの体制で、感染対策を行いながら実施してきました。年度後半には、園外保育で遠くへ行くことや、卒園式では、来賓にも参列していただくなど、徐々に例年通りに戻せた部分もありました。

運動会では、0歳児や独歩できない低月齢の児が多かったため、0,1歳児ちゅうりっぷ組のみ別の日に屋内での運動会を行いました。保護者と一緒に表情よく楽しむ姿が見られ、

子どもたちに無理のない形での運動会を行うことができました。今後もこの形で続けていきたいと思えます。

年長社会見学では、JRが廃線になったことで、園の近くにバス停留所ができたので、歩いてバスに乗り、JRに乗り継ぎ、千歳まで行ってきました。カトリック千歳教会へ行き、神父様のお話を聞いて、水族館、空港と見学しました。帰りは自動車で帰ってききましたが、盛りだくさんの経験ができました。

6. 給食

給食委託業者と連携を取り、衛生面に配慮した提供を行ってききましたが、異物混入がありました。幸いにして、園児が口に入れることはありませんでしたが、再発防止に努めています。

離乳食の種類、アレルギー除去食の種類が多くなっており、厨房、担任、他職員全体で注意を払い提供してきました。

行事食などのリクエストメニューにも可能な限り応えていただき、子どもたちが喜ぶものを提供することができました。

家庭での食生活が、子どもたちにも影響しているためか、残食が目立つ園児もいますが、食育などを通し、いろいろなものを口にすることができるようになってきています。

7. 保健衛生

感染対策として、通常の清掃に加え、消毒、換気に努めてきました。また、胃腸炎などの症状が、園児、職員に出たときには、緊急時消毒対策のマニュアルに切り替え、使用食器などは、消毒後に厨房に入れるなどの配慮を行っております。

町の保健師と臨床心理士（町委託）が来園する「のびのび訪問事業」では、気になる園児の関わり方などの相談や保護者との共有に大いに役立っています。

- ・園医健診 年2回 《嘱託小児科医》出口小児科医院（岩見沢市）出口 靖 氏
- ・歯科検診・フッ素塗布 年2回
《嘱託歯科医》山崎歯科医院（月形町）山崎 伸太郎 氏
- ・フッ化物洗口（4,5歳児）週2回法（水、金）
- ・身体測定 月1回
- ・のびのび訪問事業、発達検査（臨床心理士、保健師来園） 年間5回実施

8. 防災、安全管理

（1）防災

予定されていた防火パレードは、コロナ感染と重なり、中止となりましたが、子どもたちの声を消防の広報車で、町内に流し防火を呼びかけました。子どもたちの防災

意識を高めるとともに町民への防火呼びかけができました。

- ・避難訓練 ・火災（月1回）、地震（年1回）、水害、避難場所への移動（年1回）
- ・秋の火災運動広報活動（広報車の防災呼び掛け、ポケットティッシュのお絵描き
- ・救命救急講習会 《講師》岩見沢地区消防事務組合月形支署 7/19 正職員参加
- ・消防設備点検 4/28、12/2（消防報告）

（2）事故報告

《事故報告》

他害による嘔み・・・12件

他害によるひっかき・・・6件

転倒による口内出血・・・8件

手を挟める・・・5件

（通院事故）裂傷・・・2件

口内出血・・・1件

《ヒヤリハット》

誤飲の恐れ・・・3件

飛び出し・・・1件（保護者迎え時）

保育室内に室内にガラスの破片が落ちていた・・・1件

* 振興局への報告を要する件はありません。

9. 苦情受付・・・2件

0歳児におむつかぶれがあり登園していましたが、家に帰ると出血があり、丁寧に拭いていないのではないかと苦情でした。園内のおむつ交換の際は、出血は見られておらず、おむつかぶれがある園児に対して、粗雑に扱うことはありませんが、排便回数が多いことにより、かぶれがひどくなってしまったと思われます。なるべくシャワーできれいにするよう伝えて、納得してもらっています。

給食の異物混入があった際、当該児の保護者に伝えるのが遅れてしまい、当該児から保護者が聞いて知ることになってしまいました。職員から先に教えてほしかったという訴えです。今後は迅速に対応するよう心がけます。

10. 職員研修

《外部研修》

北海道社会福祉協議会 保育士等専門研修 1名（オンライン）

北海道社会福祉協議会 障がい児担当保育士等研修 1名（オンライン）

北海道社会福祉協議会 乳児保育専門研修 1名（オンライン）

北海道社会福祉協議会 乳幼児のための食育研修 1名（オンライン）

日本保育協会 危機対策セミナー 1名（オンライン）

日本保育協会 保育の質の確保向上セミナー（オンライン）

全国社会福祉法人経営者協議会主催 保育経営セミナー 1名（オンライン）

日本カトリック児童施設協会東北ブロック施設長研修・職員研修 1名（仙台）

《園内研修・委員会》

- ・リズム活動、わらべうた（5/17） ・保健衛生研修（5/11） ・理事長研修（5/16）
- ・リズム活動（7/6） ・救命救急講習（7/19） ・不審者対応（10/12）
- ・保育向上委員会（正職員対象） 0,1,2歳児（0,1,2歳児担任、リーダー）年間9回
3,4,5歳児（3,4,5歳児担任、主任）年間9回
- ・虐待防止委員会 職員に対して、園児の尊厳が守られているかのチェックリストを実施し、振り返る機会としました。
- ・苦情解決委員会 保護者向けにアンケートを実施し、職員全体で確認しました。

11. 会議

保育会議 月1回

主任リーダー会議（園長、主任、リーダー） 月1回

自己評価委員会、苦情解決委員会この中で行ってきました

年齢別会議-0,1,2歳児会議（0,1,2歳児担任、フリー、主任、園長）月1回

-3,4歳児会議（3,4歳児担任、フリー、主任、園長）月1回

-5歳児会議（5歳児担任、主任、園長）月1回

*年度後半から、乳児の入園が多く、会議の時間が取れなかったため、必要なことは個別で話し合いました。

給食会議（ほくと給食課長、栄養士（または調理員）1名、主任、園長）月1回

保育向上委員会（正職員対象） 0,1,2歳児（0,1,2歳児担任、リーダー）年間9回

3,4,5歳児（3,4,5歳児担任、主任）年間9回

12. 保育実習、体験

養成校の保育実習、月形高校の就業体験共に希望者がおりませんでした。

月形中学校保育体験実習（コロナ感染のため中止）

13. 地域との交流

- ・月形小学校1年生交流授業（コロナ感染拡大のため中止）、
月形小学校入学児童引継ぎ
学童保育入所児童引継ぎ
- ・月形町教育振興会参加（岡崎、辻、豊田） ・学校運営協議会委員（豊田）
- ・子ども子育て会議委員（豊田） ・月形町自立支援ネットワーク委員（中山）
- ・月形町地域福祉ネットワーク委員（若井）
- ・広報活動-町民全戸配布のおたより（2か月に1回）、ホームページ掲載、フェイスブック投稿

14. その他

- ・運営指導監査（11/22）指摘事項はありませんでした。
- ・監事監査（1/30）指摘事項はありませんでした。

地域子育て支援拠点事業

子育て支援センターみどりのたね 事業報告

今年度の遊びの広場は、対象児が少ないことから、年齢を分けずに全体で行いました。落ち着いた雰囲気の中で行うことができていました。毎回参加する家庭がほぼ決まった形でした。まだ、参加したことがない家庭にも足を運んでもらえるよう出張子育て支援で積極的に声をかけていきました。保育士から積極的に話しかけたり、関わっていくことで、お母さんたちの気持ちや子育ての悩みなどを聞くことができました。

- ・しろくまちゃんこぐまちゃん あそびの広場 20回計画 16回開催 参加者延べ71組
- ・おしゃべりカフェ 3回開催 参加者延べ12名
- ・おやこ DE キッチン（満1歳6か月以上） 3回開催 参加者延べ5組
- ・たのしい☆えいご（満2歳以上）対象児が少ないことで参加人数は減っています。
5回開催 参加者延べ3組
- ・出張子育て支援 cou-cou 町の乳幼児健診の場 9回開催 参加者延べ48組
- ・絵本の貸し出し 12冊
- ・子育て相談 食事、夜泣き、睡眠などの生活習慣での悩みやお父さんとの関わりについて話を聞きながら、共感をしたりアドバイスをしました。相談件数15件
- ・キッズルーム（子育て支援の開放）コロナ対策使用できない期間が長くあり、利用数は少なくなっています。 利用延べ19組
- ・広報活動 町民全戸配布のおたより（2か月に1回発行）、IP 電話告知

一時的保育事業 事業報告

3歳児以上の町内の幼児は、全員こども園に在籍しているので、利用はありませんが、3歳未満児では、特定の児が多かったのですが、集団を経験させることや育児負担軽減での利用がありました。自分の子どもが、集団の中でどのように過ごしているのか楽しみにしてくれていたようです。

- ・利用数 終日利用 延べ26名、半日利用 延べ7名

2022年度

ライフネットゆうばり 事業報告

1、運営状況

1) 概況

2022年度においては日中サービス支援型グループホーム、短期入所事業、共同生活援助事業、生活介護、就労移行、就労継続B型の事業運営を行いました。新型コロナウイルス感染症の対策を継続する中、年度内を通して北海道の対策や法人の指針に則り定期的に感染症対策委員会を行い、行事内容の変更や通所利用の停止、通院の代行など事業所内での感染症対策を適宜実施しました。

2023年3月31日時点での利用者総数は1名増2名減の45名で、職員数は6名増4名減の36名となりました。

地域社会への貢献活動として、職員が消防団活動や商工会、飲食店連合会等の市内各団体の役割を担ったほか、管理者が夕張市保育協会の役員、夕張市自立支援協議会会長、夕張高等養護学校の学校運営協議会会長、民生委員推薦会委員などを務めました。また、相談支援課長が療育推進協議会委員、特別支援教育連携協議会委員を務めました。

地域行事に関しては地域の「南清水沢ふれあい祭」をはじめ市内のお祭りやイベント、中学校、高等学校、養護学校の行事等が3年続けてほぼすべて中止となり、パンやカレーのイベント販売や利用者の行事参加はほぼありませんでしたが、パンの外部販売はほぼコロナ前の状況に戻りました。カレーハウスにおいては週替わりメニューの導入やデザートや飲料メニューの充実により、来店者が増えるとともに客単価も上昇しました。

個別支援計画等の説明会は感染症予防の対策から中止としましたが、各担当職員からの電話連絡等でご家族からのご意見をいただきました。秋の旅行は道内の新型コロナ感染状況を考慮し日帰りの企画としました。

2) 利用者の動向

9月に日中グループホームの女性利用者が地元の札幌市のグループホームに移行しました。12月に通所の男性利用者が日中グループホームに入所しました。1月に日中グループホームの男性利用者が逝去されました。年度途中で就労継続B型事業利用者の1名が生活介護事業に移行しました。3月31日現在で、日中サービス支援型グループホーム利用者19名（男性10名・女性9名）、介護サービス包括型グループホーム利用者20名（男性11名・女性9名、うちサテライト4名）、通所、ショートステイ利用者6名（男性4名・女性2名）総利用者数45名となりました。

3) 職員体制

2022年度は9月に生活支援員1名、1月に夜勤専門員1名、3月に生活支援員1名と夜勤専門員1名が退職しました。新規採用に関しては5月に生活支援員2名、6月に生活支援員2名、10月に生活支援員1名、3月に夜勤専門員2名を採用しました。2022年3月現在の職員数は36名（男性13名、女性23名、正規10名、嘱託等26名）でした。

4) 修繕・環境整備

7月に敷地内の排水整備工事と日中サービス支援型グループホーム周囲の外構工事（アスファルト舗装）を行いました。感染症対策に関してはアルコール消毒器や非接触体温計などの日常衛生備品に加え、フェイスシールドや防護服、高機能マスク等感染発生時に必要な物品を整備するとともに、事業所内の定期的な消毒、清掃や来客制限等を継続し、法人の方針に基づき地域の状況を考慮した対策を実施しました。

5) 防災

7月29日に地震を想定した災害訓練を実施したほか、火災想定避難訓練を5月25日と10月31日の2度実施しましたが、いずれも感染症予防の観点から夕張消防の立会いは求めず、自主訓練としました。5月24日には消防団職員により、利用者、職員を対象に風水害を想定した災害講習会を開催しました。新任職員を中心に防災業者による非常通報機器の説明会を行い、緊急時対応の意識の向上とスキルアップに努めました。また、火災以外の災害（風水害、土砂災害、雪害等）に関する防災マニュアルの整備や空知災害対策委員会との連携を通し、非常時における行政や消防等関係部署との体制を整備しました。

6) リスクマネジメント

管理者、課長、看護師参加の感染症対策委員会を継続して実施し、北海道の動向や法人の方針、地域の感染状況を鑑みた感染症対策を講じ、利用者、職員間で周知徹底しました。また看護師を中心に感染症発生時のマニュアルや事業継続計画を策定し、万が一の場合に即応できる体制を整えました。

例年多くの職員が参加している権利擁護や虐待防止などの研修会は、ほとんどがオンラインでの開催となりましたが、感染症対策関係も含め適宜参加しました。

事業所内での事故や事故につながる案件に関して、インシデントレポート等を活用し職員間で情報と対策の共有に努めました。

7) 給食

栄養士と委託業者の北日本フードサービスの連携の下、利用者の健康や安全に配慮した食事提供を行いました。また、例年通り毎月定例で役職員や看護師を含めた給食運営会議を実施しました。給食は定期的な利用者の嗜好調査をもとに、作業所で現場提供をするお楽しみメニューを毎月実施したほか、全国のご当地メニュー、季節に合った行事食、選択食を年間で40回程度提供するなどバラエティー豊かな内容で、利用者の皆さんや相談日の第三者委員からも好評をいただきました。またパン工房の試作試食を兼ねたパンバイキングは回数や内容を見直し、サンドイッチバイキングや手作りのデザートバイキングなども実施しました。年度を通して新型コロナウイルス感染症予防を徹底するため、納入業者の立ち入り制限や利用者の食事形態の変更を実施しました。

8) 職員研修

年度途中から対面集合形式での全道規模研修会も増え、管理者、課長職を中心に適宜参加しました。オンライン開催の感染症対策や権利擁護等の研修会についても、内容に応じて看護師や現場職員が参加しました。総務係長が神奈川県にて中央福祉学院主催の社会福祉法人会計実務講座を3日間受講しました。毎月の職員会議において新聞報道の

あった虐待事例の検証、自治体やほかの事業所の取組みの紹介、日本知的障害者福祉協会研究誌「さぼと」からの情報提供、研修報告等による学習会を継続して行いました。嘱託職員、パート職員を対象に年4回、管理者および課長職、看護師から権利擁護や意思決定支援、実際の支援、介助方法についての学習会を実施しました。法人課長会議においてカトリック司祭である理事長から、法人の理念や歴史、カトリックの精神について講義を受けました。

| 項目 | 参加回数 | 延人数 |
|--------|------|------|
| 事業所外研修 | 18回 | 22名 |
| 事業所内研修 | 16回 | 295名 |

9) 会議

年度を通して会議の形態や運営の見直しを進め、効率的な審議や議決、報告ができるよう整備を進めました。管理者および役職員による幹部会議を適宜実施し、組織運営等に関する重要事項を検討するとともに、情報の集約と共有を進めました。日常的に朝会や終会等においても利用者のケース検討や情報の共有を行うとともに、月例職員会議にて毎回学習会を行い、福祉を取り巻く情勢や法制度等の共通理解に努めました。

| 会議名 | 形態 | 備考 |
|-----------|-----|--------------------------------|
| 職員会議 | 月例 | 内外の検討・報告事項、ケース検討、研修報告予定確認、学習会等 |
| 全体会議 | 1回 | 辞令交付後職員全体で事業計画、予算の周知 |
| 幹部会議 | 適宜 | 検討事項の原案作成、職場内意見の集約 |
| 生活支援部会議 | 月例 | 生活支援部の検討事項、ケース検討 |
| 日中活動担当者会議 | 月例 | 就労支援部の検討事項、ケース検討 |
| 給食会議 | 月例 | 利用者の嗜好調査、給食への意見集約 |
| 給食運営会議 | 月例 | 給食への意見集約、衛生管理の確認 |
| 虐待防止委員会 | 年2回 | 利用者の権利擁護に関する会議 |
| 感染症対策委員会 | 適宜 | 事業所内外での感染症対策に関する会議 |

10) 実習生・ボランティアの指導

今年度は北海道介護福祉学校から3名、保育総合専門学校から3名の実習生を受け入れました。ボランティアの受け入れは感染症予防の観点から行いませんでした。

11) 虐待防止と苦情解決

虐待防止と権利擁護に関しては役職に応じ適切なオンラインでの研修会に参加した他、事業所内での研修会において報道やメディアを活用し、出来るだけ新しい情報を職員間で共有できるよう配慮しました。利用者からの苦情に関しては受け付け次第適宜早急に対応し解決するとともに、日常的に利用者の声に耳を傾け、ケース会議や日々の朝会、終会等の場で対応を協議しました。

第三者委員による相談日は5月26日と2月21日の2回設定し、感染症対策に配慮し利用者面談を実施したほか、利用者の日中活動の様子や事業所の設備、備品等を視察、また通常の昼食や行事食の試食、評価をしていただきました。

2、利用者支援

1) 日中サービス支援型グループホーム利用

感染症予防のため、年度内を通して外出や帰省の制限や通院の代行を行ったため、利用者の皆さんの外出の機会が大幅に減少してしまう状況でしたが、ゴールデンウィークや夏冬の作業休止期間を中心に、市内の感染状況を見て買い物等の外出支援を行ったほか、事業所内で会食やゲーム大会などのイベントを行いました。また今年度は感染症対策を徹底し、日帰りではありましたが秋の旅行を実施しました。

町内会の会合や行事等の地域活動、市内のイベントや学校行事、市内各団体の行事等はほぼ中止となり、利用者の参加はありませんでした。

ご家族の協力をいただき感染症対策を徹底したうえで、年度内帰省した利用者は5名で延べ人数は29名、延べ日数は167日で昨年よりは多くなったものの、コロナ前の3分の1程度でした。

2) 通所利用

通所利用者は6名、長期のショートステイ利用者が1名、グループホームからの利用は20名でした。日中活動の個別支援計画に基づき、それぞれの適性に合った作業種において個々の能力に応じた働く場を提供し、利用者一人ひとりが自立した生活が送れるよう支援に努めました。

3) 保健衛生・健康管理

年度を通して事業所内の消毒や換気、職員への衛生指導など新型コロナウイルス感染症をはじめとする各種感染症の予防に努めました。定期健康診断は感染症対策を講じ、5月30日と11月25日に実施しました。健診結果を協力医療機関に報告することで、必要な検査の受診や日常的な健康管理について情報提供を受けました。7名の方が二次検診対象となり、1名の方が脂質異常との診断で内服薬治療となりました。胃がん検診では5名の方が指摘を受けましたが、二次検診の結果2名の方がピロリ菌の除菌治療を受けさらにそのうちの1名の方が二次除菌治療を受けました。また口腔衛生に関しては近隣の協力歯科医療機関と連携し、必要に応じて通院による治療を受けましたが、ブラッシング指導に関しては感染予防の観点から中止し、事業所内での食後のブラッシングサポートを手厚く行いました。

4) 有償移送サービス

S T ネットの有償移送講習を受講した支援スタッフが、協力医療機関以外への通院や研修、個人の用件での外出時等、円滑に利用者を移送できるよう安全運転に努めました。有償移送運転者登録職員は資格取得者5名で、年度内延べ42名の利用者が協力医療機関以外の通院やお墓参り、帰省等の機会に利用されました。

3、地域支援センターライフネットゆうばり

1) 概況

就労移行支援事業及び就労継続支援B型事業を実施しました。就労移行支援に関しては、市内の高齢者のグループホームと特別養護老人ホームで、それぞれ利用者の就労は継続していただきましたが、定期的な職場訪問や就労先の担当者との打合せなどは出来ず、電話やメールでの状況確認となりました。

就労継続支援B型に関しては年度を通して感染症予防の必要性から、活動の範囲の縮小を余儀なくされる時期もありましたが、カレーハウス店舗営業やパンの外部販売はコロナ前の水準に戻り、その他の作業に関しても大きな制限なく活動することが出来ました。工賃に関しては前年度に比べ日中活動収入が増加したことから、減額することなく毎月の給与を支給し6月と年末には賞与を支給しました。

例年実施してきた作業班ごとの事業所見学や外出は出来なかったため、事業所内での会食やレクリエーション活動を行いました。

2) 日中活動支援（作業支援）

①共立製作所

7名の利用者が従事しました。美唄の日本理化学からの黒板消し、ホワイトボード用クリーナー、珠算用すべり粉、布製品等の製作を下請けとして行ってきました。年度途中で受注量の大幅増や緊急の作業依頼がありました。恒常的に職員を2名配置し安定した作業活動を提供することが出来ました。室内作業で運動不足になりがちな利用者の健康増進や精神衛生のため、定期的に屋外でのウォーキングを取り入れました。

②グリーンセンター南清水沢

8名の利用者が従事しました。敷地内の農地でのトマト、ナス、ピーマン等の野菜類の栽培や、乾燥機を利用してのドライトマトや切り干し大根、乾燥椎茸の製造販売を行いました。また隣接する無償貸与を受けた市有地も畑作用の整備を行い、トウキビや原木シイタケ等の栽培を行いました。また、地域のコンビニエンスストアと新夕張駅から空き缶等のリサイクル作業の受託や、冬季間は事業所敷地内の除雪を受託したほか、夕張市からの委託事業として高齢者宅と非常用消火栓の除雪作業を行いました。

③ベーカリーめぐみ

6名の利用者が従事しました。市内の感染状況によって断続的に外部販売が休止となる時期もありましたが、売り上げはコロナ前の状況に戻ってきています。感染症やウクライナ情勢による原材料費の高騰が影響し収益率が下がって来ているので、仕入れの見直しや作業工程の確認、光熱費の削減等の対策を進めました。定期的に新商品を開発販売し好評を得ました。

④手織り工房レラ

5名の利用者が従事しました。さをり織りを中心に、手織り物、絵画などのアートの活動を行いました。販路に関しては夕張観光案内所等市内事業所のほか、南幌めぐみ学園のカフェコーナーの常設販売に出品させていただいていましたが、感染症対策の影響で販売休止の事業所もありました。

⑤カレーハウス朋

2名の利用者が従事しました。店舗での販売は夕張市拠点複合施設「りすた」からの来客も多く増加傾向となりました。冬期間限定でのカレーうどんや週替わりでのワンコインランチの販売、デザートや飲料メニューの見直しを進め、来客数や客単価が上昇しました。

⑥ビスターリさぼーと

高齢化等の影響で前年度の5名から8名増の13名の利用者が活動に参加しました。高齢者、病後者を対象とした日中活動の場として日常的な軽作業、野菜作りやレクリエーション、遊具を利用した運動やビデオ体操などのリハビリ的な活動を行ってきました。また、利用者の高齢化で日中活動支援の部分よりも介護支援の部分が多くなってきており、毎日のバイタルチェックや排泄、食事量、水分摂取など、日常的な生活面での確認や安全面の配慮を重点的に行ってきました。

⑦園内実習（清掃、リネン）

3名の利用者が本体施設の清掃、リネン業務を行いました。業務の中でより社会性を身につけることが出来るよう、業務の精度だけではなく挨拶や勤務時間の遵守等社会参加に向けた取り組みを行いました。

⑧一般就労支援

2名の利用者が特別養護老人ホームと高齢者のグループホームの職員として継続して雇用されました。電話連絡が中心となりましたが、先方担当者と情報を共有し、職務の内容や勤務形態の調整を行うとともに、利用者とも随時面談し仕事へのアドバイスや心情把握に努めました。

3) 余暇支援

プロジェクターと大型スクリーンを利用し、休日や祭日にセンターカレーハウス店舗部分を活用し映画上映会を数回実施しました。飲み物とおやつを用意し、入所利用者も含め多くの利用者が参加しました。

4) 地域交流

センターを地域の方たちへ開放し、会議や催し物のできる場所として利用して頂きました。「南清水沢ふれあい祭」をはじめ市内の多くの行事やイベントが中止になり、イベント販売や利用者の行事参加もほとんどありませんでした。

5) 地域生活支援

共同生活援助事業所の事務所として、グループホーム紅葉（女性5名）、グループホーム楓（男性5名）、グループホーム緑（女性2名）、グループホームかつら（男性4名）、サテライト（男性2名、女性2名）のバックアップを行ないました。

世話人業務に関しては夕張市シルバー人材センターから人員派遣を受け食事の用意や清掃業務をお願いしてきましたが、今年度はシルバー人材センターの登録者の減少等により恒常的に人員派遣が滞る状況が続き、部分的に事業所職員への業務の切り替えを進めました。

(資料)

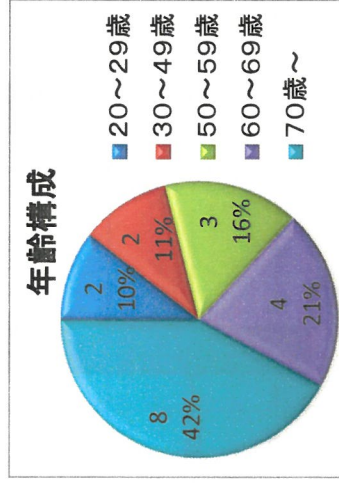
2022年度 運営概況

2023年3月31日現在

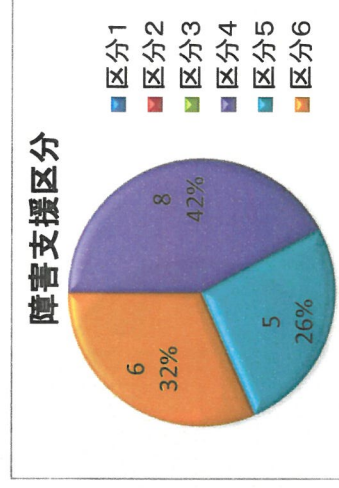
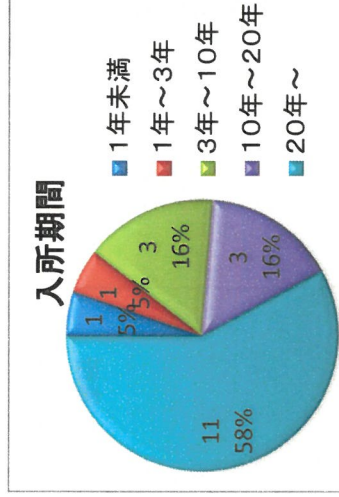
1) 職員配置 総数36名 (男13名、女23名 正規10名、嘱託他26名)

| | | | | | |
|-----|-----|-------|-------|--------------|-----------|
| 管理者 | 課長 | 係長 | 主任 | 生活・相談支援員、世話人 | サービス管理責任者 |
| 1 | 3 | 1 | 1 | 18 (兼務含) | 5 |
| 看護師 | 栄養士 | 就労支援員 | 職業指導員 | 夜勤専門員 | 事務員 |
| 2 | 1 | 1 | 2 | 4 | 3 (兼務含) |

2) 日中サービス支援型グループホーム入居者の状況 (男性10名、女性9名)

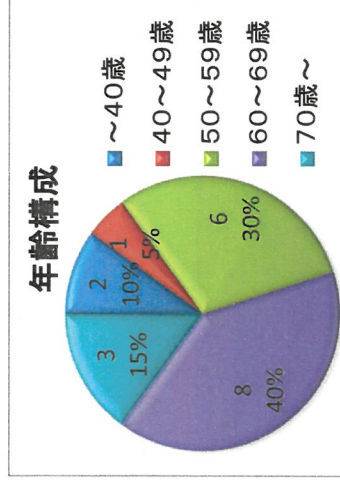


・平均男61.6歳 女62.5歳
全体62.0歳

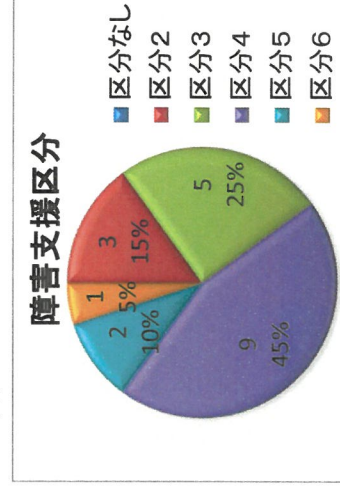
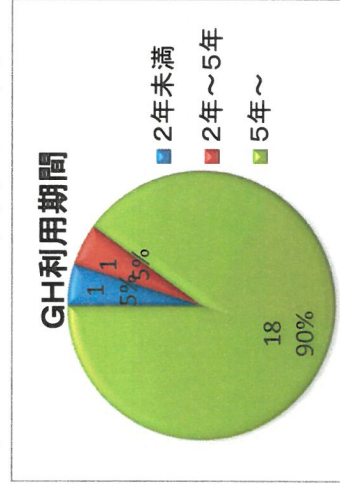


・平均5.1

3) 介護サービス包括型グループホーム入居者の状況 (男性11名、女性9名、サテライト含)

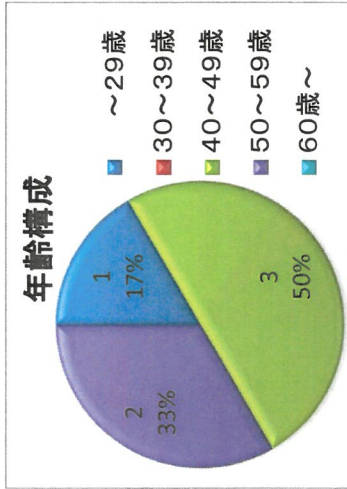


・平均男55.6歳 女60.4歳
全体57.8歳

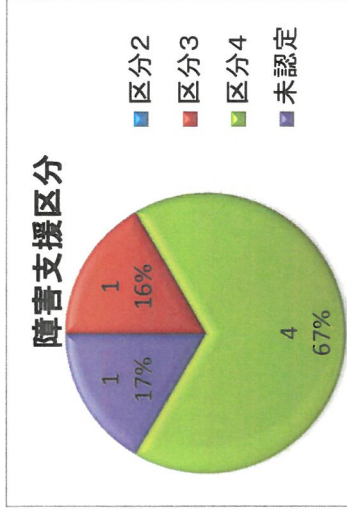
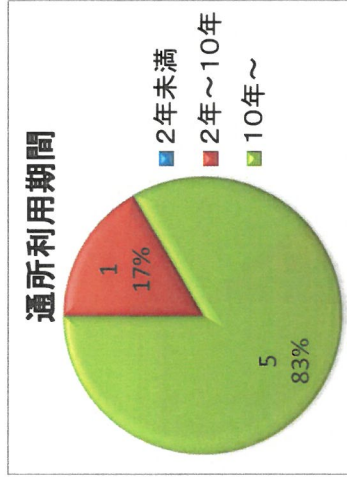


・平均3.6

4) 通所利用者の状況 (男性4名、女性2名)

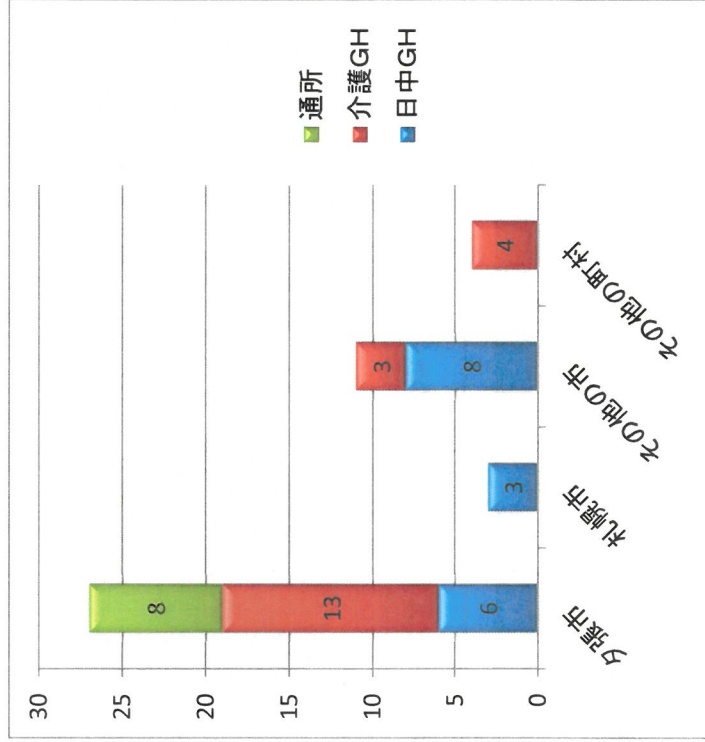


・平均男38.5歳 女51.0歳
全体42.6歳

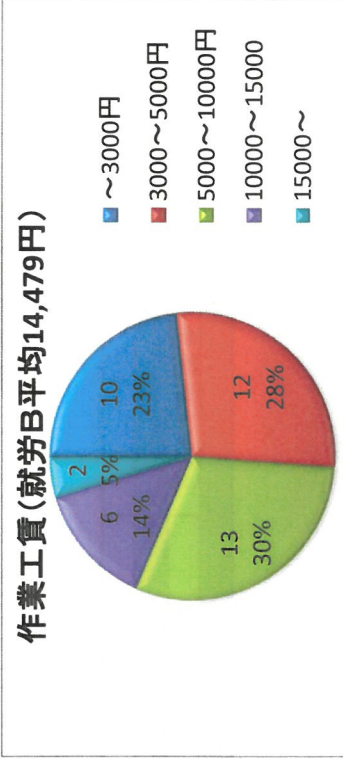
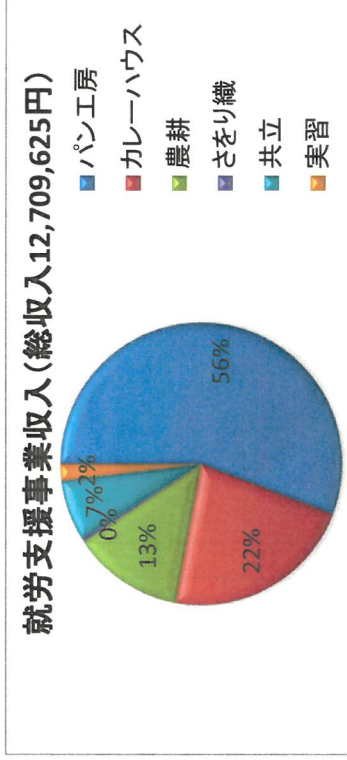


・平均3.8

5) 出身市町村



6) 就労支援の状況 約100万円増



2022年度 しみずさわ共同生活援助事業所 事業報告

1、概況

2022年度においては引き続き介護サービス包括型グループホーム4か所（利用者16名）と、市営住宅を利用したサテライト住宅4か所（利用者4名）を運営しました。シルバー人材センターの登録者の減少等により恒常的に人員派遣が滞る状況が続いたため、部分的に事業所職員への業務の切り替えを進めるとともに、職員の早番遅番の業務内容や、世話人の業務内容に関し適宜見直しを行いました。感染症予防のため市内での感染が確認された時期は全員公用車での送迎を行い、個人での外出も自粛していただきました。

2、利用状況

| ホーム名 | 定員 | 実利用者 |
|-------|-----------|------|
| 楓 | 男性5名 | 5名 |
| 紅葉 | 女性5名 | 5名 |
| 緑 | 女性2名 | 2名 |
| かつら | 男性4名 | 4名 |
| サテライト | 男性2名、女性2名 | 4名 |

3、職員状況

- ・サービス提供管理責任者 1名（常勤）
- ・生活支援員 3名（兼務）
- ・看護師 1名
- ・世話人 5名（兼務1、シルバー人材センター委託4）

4、利用者支援

1) 生活支援

日常の食事作りや掃除等の環境整備に関してはシルバー人材センターに委託し、派遣された4名の世話人により行っていただきましたが、年度途中から部分的に業務を事業所職員に切り替えました。金銭管理や健康管理、日常の相談支援やご家族との連絡に関しては、サービス管理責任者が中心となり、看護師や栄養士が連携を取りながら個別支援にあたりました。また、移動や入浴に関する支援が必要になってきたことから、本体兼務の生活支援員や世話人がきめ細かなチームケアを行いました。年度内で帰省した方は20名中9名でした。

2) 日中活動支援

利用者個々の意向を踏まえ、しみずさわ本体およびライフネットゆうばりと連携を取りながら、ご本人が意欲を持って取り組めるよう適切な日中活動を提供してきました。感染症対策もあり年度を通して13名の方が送迎支援を利用しました。

就職してグループホームやサテライトから職場に通勤している利用者に関しては、職員が毎日朝夕に健康状態などを確認するとともに、金銭管理や相談支援を継続して行いました。就労先においても就労担当職員が定期的に、電話連絡等で先方担当者との情報交換を行いました。

2022年度 しみずさわ短期入所事業所 事業報告

1、概況

2022年度においては日中サービス支援型グループホームライフネットゆうばりでの併設型2床での短期入所事業を実施しました。年度内を通して感染症予防に配慮し利用して頂きました。

2、利用状況

市内在住の男性1名がご家族の事情により長期の利用を継続しました。

元夕張市在住で相談支援を継続していた札幌市在住の女性が、家庭の事情で緊急的に利用されました。

夕張市在住の通所利用者が日中サービス支援型グループホーム利用を前提に、一定期間体験利用をされました。

| 月 | 人数 | 利用日数 | 備考 |
|---------|----|------|----------|
| 2022年4月 | 1 | 30 | 市内在住男性継続 |
| 5月 | 2 | 33 | 〃 札幌市女性 |
| 6月 | 2 | 37 | 〃 〃 |
| 7月 | 1 | 31 | 〃 |
| 8月 | 1 | 31 | 〃 |
| 9月 | 1 | 30 | 〃 |
| 10月 | 2 | 39 | 〃 市内男性 |
| 11月 | 1 | 30 | 〃 |
| 12月 | 1 | 31 | 〃 |
| 2023年1月 | 1 | 31 | 〃 |
| 2月 | 1 | 28 | 〃 |
| 3月 | 1 | 31 | 〃 |
| 計 | 3 | 382 | |

3) 余暇支援

感染症予防のため町内会活動への参加の機会はなく、日常的な外食や買い物、夏季冬季の作業休止期間の外出の機会は限られましたが、グループホームの敷地内でのイベントや市内外出を企画実施しました。グループホーム敷地内で花壇や家庭菜園のスペースを設け、利用者が年間を通して楽しめるよう整備しました。

静内ベビーホーム事業報告

1. 運営状況

今年度も利用数が少なく、4月の時点では41名と定員に満たない状態でした。

特に0歳児は減少傾向にあります。年度途中の入園もありましたが、退園もありなかなか利用定員に近付く事が難しい状態でした。利用人数が経営に影響するので、難しく非常に厳しいです。今後も、少子化は続いていきそうです。来年度も定員に達することは見込めないで、

一時預かり事業にも、着手していく予定であります。ベビーホームを多く知っていただけるようFacebookも細目に行っていきます。

又、建て替えについて、昨年より新ひだか町の職員とも勉強会を行い、少しずつではありますが、前進しております。

新型コロナウイルス感染症が、流行した際には、担任が全員感染し、保育もままならない状態でしたので、急遽、保護者に連絡をし1日だけ、クラス閉鎖を行いました。大人が多数感染するという事が初めてで戸惑いましたが、職員、保護者の協力もあり一日だけクラス閉鎖をし、対応いたしました。

行事に関しましては、0～2歳が無理なく参加できるように、計画しております。親子で参加できるものを考え、子どもたちの生活リズムを崩さないよう時間の配慮も行いました。

2. 園児の状況

4月初旬は、少子化により入園数も少なく又、途中退園が要因になっていると思います。

3月に0歳児3名の入園があり、55名在籍になりました。広域保育希望者も、積極的に受け入れもいたしました。

月齢別・月別在籍児童数

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|-----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 0歳児 | 5 | 6 | 8 | 10 | 10 | 12 | 12 | 13 | 13 | 14 | 15 | 18 |
| 1歳児 | 15 | 15 | 14 | 16 | 17 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | 17 |
| 2歳児 | 21 | 21 | 21 | 21 | 21 | 21 | 21 | 21 | 21 | 20 | 20 | 20 |
| 合計 | 41 | 42 | 43 | 47 | 48 | 51 | 51 | 52 | 52 | 52 | 53 | 55 |

3. 職員の状況

活動の前後や昼食前は、子どもたちに配慮が必要なので、補助が必要なクラスは、状況に応じて対応をしました。

有給休暇がとりやすい環境であったり、記録やチーム会議を勤務時間内に終わらせるよう、クラス内や職員間で調整をしたり、一人ひとりが平等になるよう工夫しているようです。

4. 保育状況

□0歳児（つぼみ組）

今年度も引き続き、食事の担当制を意識していった。

その他に、戸外準備も担当で丁寧に準備を行い、1対1から1対2と子どもの成長に合わせて進めていった。

昼寝も昼食後、自ら布団へ向かい横になっていた。オムツ交換も声掛けだけで自ら向かい、交換台に横になっていた。日々のリズムや習慣を子どもの意思を尊重しながら丁寧に言う事で子どもたちも先の見通しが分かり安心し、のびのびと成長できることを実感した。

また、保育士間で子どもの成長を周知し、その子に合った援助を行う事の必要さも改めて感じた。

□1歳児前半（つくし組）

育児担当保育において今年度は、進級・継続児は1年間担当を変えずに、食事・排泄・戸外のおそびと日常生活の基本場面を意識して行いました。

変更のある場面では、声かけをして予告をする等の配慮も行い、クラス内には変更ができない子や配慮が必要な子、個別対応が必要な子もいましたがその都度、クラス内で会議や話し合いを持ち、情報交換を行い共有しながら同じ対応が出来るよう心掛けた。

大人の人数の配置や部屋の環境等はまだまだ課題があると感じている。

□1歳後半・2歳児（すみれ組）

子どもたちの興味に合わせて室内環境を作るようにした。意図をもって用意することができたと感じている。

玩具の遊び方についてはクラス内で意思統一し子どもに接した。集団の中での室内遊びのルールなど試行錯誤ではあったが、子どもたちにも伝わっていたように感じる。活発な子が多かったこともあり室内遊びが激しくにぎやかな印象だった。月齢的に衝動を抑えられないのと模倣が多く、他児の影響を受けやすい。そのため戸外遊びを日課にし、体を動かす機会を多く持つようにした。天候や時間帯で戸外に出られないことがあるため、体を動かしたい月齢の子たちには室内でも身体を十分動かせる空間は必要だと実感する。遊びを見守り必要な援助を考えながら保育をし、課題をクラスで話し合った。そして職員会議には実践を伝え、意思統一や考えるきっかけを作る事ができたと思う。保育の理解を得るために保護者の声に耳を傾けるようにし、問題点は早急に解決するように気を付けた。信頼関係を大切にするため、育児日記や登降園時に子どもの様子を伝え、安心感を持ってもらえるよう努めた。

□2歳児（たんぽぽ組）

自己主張が強く、気持ちの切り替えが難しい子が多いクラスだった。個別対応を中心に個々の気持ちの寄り添いを大事にしながら保育を行った。担当にこだわりを持つ子もおり、子どもの気持ちを尊重しながら関わった。後半には自分の気持ちを言葉で表すようになり、気持ちが落ち着いてから自ら次の行動に移せるようになっていた。

好きなあそびをじっくり取り組んだ事により、机上あそび、積み木あそびの発達が目覚ましいものがあった。

ロンディ、アートステック、ひも通しと色づかいや形を意識し、模様づくりを楽しんでいた。

絵本では、1対1から集団の読み聞かせへと移行。見たい子、あそびたい子と子どもの気持ちを尊重して読み聞かせする事により集中して見ていた。絵本のセリフを覚え、磁石や積み木で絵本の内容を表現するようになり、さらなる発展への援助が課題となる。後半カードゲームを取り入れる。負けた時の悔しさを体いっぱい表現する子が多かったが、そこから次のゲームへと気持ちを切り替えたり、友だちを応援する姿も見られ、気持ちの切り替えと共に社会性の育ちも感じた。

生活面では、排泄、着脱、手洗いと一人一人丁寧に関わる事を心がけた。後半には自立する子が増え、自主的に行えるようになってきていた。

研修を通してあそびを学び、保育への気づきも増えた。研修を参考にしながら、部屋の環境を整えた。

5. 行事

0～2歳児は保育の中心が「生活とあそび」と考えていますので、子どもたちを集めて何かをするという特別な事は行っていません。親子で参加出来るものを計画し実行しています。保護者には説明をし、理解していただいています。

- ・9月 ベビーホーム祭
 - ・10月 懇談会
 - ・12月 クリスマスイベント
 - ・3月 卒園式
- 季節のお祝い事は玄関に飾り、お祝いしています。

6. 給食

「食」の安心安全を考え、給食を提供しました。

食材は産地に配慮し、旬の物を積極的に取り入れるようにしました。しかし物価高騰により食材も値上がりし、献立を立てる時に、難しい面もありました。

食事中に子ども達の食べている様子を見に行き、食材の大きさに違いがある事を再認識し、又、食欲や苦手な物など知り、確認・統一・間違いがないよう話し合いを大切にしました。

温かいものを提供出来るようにと間違いがないよう、食券を使用しました。

〈離乳食〉食べづらさがあるものは、とろみをつける等、工夫しました。月齢が変わることで離乳食も変わるので、子ども達の月齢の意識をもう少し持つべきだったと思いました。

7. 保健衛生

子ども達が健康で安全な園生活が送れるよう、安全点検や感染症対策を行い予防に努めました。

1、2月にRSウイルス、2、3月には新型コロナウイルス感染症が流行しました。

2クラス（1歳児後半、2歳児）から発症しましたが、1歳児後半のクラスは担任が全員感染し、クラス閉鎖を1日だけ行いました。

1) 子どもの健康

【内科検診】 令和4年7月19日 11月15日

【歯科検診】 令和4年6月30日

【身体測定】 月1回

【その都度】 玩具消毒

【毎週】 カバー類交換 床消毒

【他】 熱計測 消毒

2) 職員健康診断

令和4年 6月27名 2月2名 札幌健診センター

令和4年10月29名 ストレスチェック

3) 職員検便

調理関係者5名

8. 防災 安全管理

1) 防災

8月に災害の恐れがあり実際に避難いたしました。情報を聞きながら避難することの難しさや町内の人の動きや車の動きなど気を付ける点など改めて勉強になりました。

住民避難訓練にも参加し、参加後は職員会議で改善等を話し合いました。

年に2回の消防署に依頼して行う避難訓練も復活させ行い、子ども達も大変喜んで参加していました。

【避難訓練実施】 月1回（火災、水害、竜巻、地震）

【消防設備の点検】

| 実施日 | 設備等の種類 | 点検者 |
|-----------|------------------------|---------------|
| 令和4年7月21日 | 消火器 火災報知設備 漏電火災報知器等 | (株) 苫小牧防災センター |
| 令和5年1月27日 | ” | ” |

2) 事故報告

子ども達の行動をみんなで見守る事、意識を持って保育を行うことをしっかりと自覚しなくてはならないと反省しています。

- ・10月・・・ボールを踏み転倒 受診 様子を見るよう指示がありました。
- ・3月・・・教会の排気塔に触れる 受診 火傷はしていなかったようです。
- ・3月・・・室内を走り転倒し、左目周辺をぶつけ、受診をしました。

3) 安全点検

毎月屋内外の安全点検を行っています。園庭は毎日玩具の出し入れがありますので点検も同時に行っております。

9. 会議

1) 職員

| 会議名 | 回数 | 参加者 | 内容 |
|-------|-----|-------------|-----------|
| 職員会議 | 14回 | 全職員 | 月計画・反省他 |
| チーフ会議 | 19回 | 園長主任チーフ | クラス状況・行事他 |
| 給食会議 | 12回 | 給食関係者・園長・主任 | 計画・反省 |
| チーム会議 | 12回 | 各クラス | 計画・反省 |

2) あけぼの会（保護者会）

| 会議名 | 回数 | 参加者 | 内容 |
|-------|----|----------------|-----------------------------------|
| 事務局会議 | 6回 | 事務局（園長・主任職員2名） | 役員会について |
| 役員会 | 3回 | 事務局 三役 監事 部長 | 事業案 予算案 補正予算 決算 部の計画・反省 総会について |
| 総会 | 2回 | 書面開催 | ” |

10. 職員研修

1) 園内研修

4月から12月まで職員会議後に研修を行いました。40分程度の動画を見てグループで話し合いそれをまとめ、全体に下ろします。全員で同じ研修を見ることは、以前から行いたい事の一つでしたので、とても楽しく良かったと思いました。

2) 外部研修

| 月 日 | 研 修 名 | 内 容 | 参 加 者 |
|--------|------------------------|-------------------------------------|-------------|
| 5月15日 | 保育問題を考える研修会 | 『保護者対応について』 講師 森順子氏 | 米陀 油井 |
| 9月26日 | ホシザキオンライン研修 | 『ホシザキ北海道主催幼稚園 保育所セミナー』 | 畦地 |
| 10月14日 | 運営管理研究会 | 『こどもを中心とした 本当の主 体的保育とは』講師藤田春義氏 | 米陀 種田 岡田 |
| 10月21日 | 本部合同研修会 | 『雪の中の熊笹学園』 講師 上杉昌弘神父様 | 油井 竹田 内田 |
| 11月6日 | 全道保育団体合同研修会 | 講座『自分も相手も大切にす るコミュニケーション』 | 米陀 種田 岡田 |
| 12月9日 | 民間社会福祉事業 職員共済会 | 『クレーム対応』 | 荒木 下川原 |
| 1月20日 | 北海道ウ民間社会福祉事業 職員 共済会 | 『コーチングセミナー』 | 布施 |
| 2月5日 | 日高地区保育研修会 | 『子ども達は自然から何を学ぶ』 講師 スウェーデン保育士巽朝菜氏 | 全職員 |
| 2月17日 | につぼ保育セミナー | 『適切な保育を続けて行く為に』 | 杉下 井村 |
| 2月22日 | 健康保険委員研修会 | | 内田 |

1 1. 地域との交流

- ・ 町との勉強会 (油井 竹内)
- ・ こども子育て会議 (油井)

令和4年度夕張市受託事業 事業報告

(生活困窮者自立相談支援事業・被保護者就労支援事業・子ども家庭総合支援拠点事業)

1、生活困窮者自立相談支援事業

(1) 実施体制

職員体制については主任相談専門員、相談支援員、就労支援員を配置。相談窓口については相談場所を3ヶ所(事業所内、市役所相談室及び複合拠点施設りすた)設置し、必要に応じて各家庭を訪問する形で巡回相談を実施しました。

(2) 支援実績

- ・利用者数は84名、うち相談申し込み者(支援プラン策定者)は39名、再プランを含む支援プラン策定件数は137件、就労者数は9名、増収者は7名。
- ・主な支援内容及び実施件数については、生活相談が79件、就労支援が40件、債務関連が7件、病気・障がいがある方が31件、フードバンクが30件、その他。
- ・夕張市との支援調整会議については、新型コロナウイルス予防の観点から毎月定例での開催は見合わせ書面で報告をしていましたが、8月からは感染症予防を行ない定例での会議を再開し、その他ケースに合わせて個別でも実施しました。

(3) 地域づくり関連の取り組み状況

- ・市内法人事業所(特別養護老人ホーム清光園、養護老人ホーム紅葉園、らぷらす、障がい者支援施設博愛舎、ぱれっとふぁーむ、ライフネットゆうばり、相談支援事業所ビンクルム)と連携し、職場見学や就労体験、職場定着を目指した支援の他、生活面や家族関係での相談対応を行ないました。又、特別養護老人ホーム清光園、ライフネットゆうばりとは、地域公益活動として実施している「生活困窮者等に対する安心サポート事業」について連携し、経済的援助の他、特別養護老人ホーム清光園においては、就職活動応援事業を活用し就労支援を実施しました。
- ・北海道社会福祉協議会、夕張市社会福祉協議会とは、特に新型コロナウイルス関連における「生活福祉資金の特例貸付」や、その後の償還、償還免除申請に係る手続き、特例以外の貸付(緊急小口資金)、その他「福祉・介護の職場体験事業」、夕張市社会福祉協議会とは高齢者への対応について、居宅介護事業所のケアマネージャー、生活支援体制整備事業における生活コーディネーターと連携し対応しました。
- ・夕張市各課(生活福祉課、税務課、建設課、市民課、保健福祉課、教育課、地域振興課等)と連携し、相談者の他、その家族についても対応しました。特に高齢者については包括支援係、ひきこもりの方や障がいがある方については、生活福祉係と連携し対応しました。又、市が実施している無料法律相談を活用し、札幌弁護士会等と連携を図りながら生活や就労、債務関連についても対応を実施しました。
- ・ハローワーク、夕張市シルバー人材センター、夕張市民生児童委員、各種企業(DADACA、JR東日本、厨房委託業者等)、病院(夕張市立診療所、南清水沢診療所等)、居宅介護事業所とも連携を図りました。

- ・NPO法人ハンズハーベスト北海道や市内農家と連携し、生活困窮者やひとり親世帯へのフードバンクの提供（定例月2回、その他随時）を実施しました。

- ・NPO法人コミュニティーワーク研究実践センターと連携し、生活困窮者への衛生用品（マスク等）や食材の提供を実施しました。

（4）その他の取り組み状況

広報活動（ポスター掲示、チラシ・カード型チラシの配布と設置）を実施し相談窓口を広げ、合わせてフリーダイヤルを設置する事で、相談者の金銭面での負担軽減や初回相談を行ないやすい環境を整えました。他、月1回定例の生活相談会を拠点複合施設りすたにて開催し、周知については広報ゆうばりや夕張市ホームページに掲載し実施しました。又、ジョブクラブ（就労体験）については、新型コロナウイルス感染症予防の観点から定例での開催は見合わせおり、個別での対応を実施しました。その他、相談技術向上の為、各種研修会にリモートにて参加しました。

2、被保護者就労支援事業

（1）実施体制

職員体制については業務管理責任者、就労支援員、事務補助員を配置。

（2）事業実施内容

生活保護係から選定された就労対象者について、地区担当員と連携を図り、求職活動支援（求人情報の収集及び提供、ハローワーク、職場見学、就労体験、面接等への同行、履歴書作成等）、職場定着へ向けた支援（職場、自宅訪問、電話相談等）、各種連絡調整、個別求人開拓、個別でのジョブクラブを実施しました。他、定期開催していたジョブクラブについては、新型コロナウイルス感染症予防の観点から見合わせています。

（3）支援実績

登録者数14名、その他ケース共有のみ8名

（4）各関係機関との連携状況

- ・市内法人事業所（特別養護老人ホーム清光園、養護老人ホーム紅葉園、らぷらす、ぱれっとふぁーむ、障がい者支援施設博愛舎、相談支援事業所ビンクルム等）、一般企業と連携を図り、職場見学や就労体験、面接同行や職場定着を目指した支援等を実施しています。他、障がい者の就労支援事業所（ライフネットゆうばり）にて、日中活動で提供している軽作業を個別のジョブクラブとして活用しました。

- ・特別養護老人ホーム清光園が実施している就労訓練事業や、北海道社会福祉協議会で実施している介護・福祉の職場体験事業等について、連携を図りながら利用を検討しました。

- ・夕張市各課（生活福祉課、税務課、建設課、市民課、保健福祉課、教育課、地域振興課等）、夕張市社会福祉協議会、ハローワーク、夕張市シルバー人材センターと連携し、相談者の他、その家族についても対応を実施しました。特に高齢者については包括支援係、市外にて障がい者のグループホームでの生活や就労希望がある方については、

地区担当員や相談支援事業所ビンクルム、市外の福祉事業所と連携を図りながら対応しました。又、市が実施している無料法律相談を活用し、札幌弁護士会等と連携を図りながら、就労のみではなく生活面や債務関連についても対応を実施しました。

- ・生活保護決定迄の繋ぎとして、NPO法人ハンズハーベスト北海道、コミュニティワーク研究実践センターと連携を図り、食材や衛生用品（マスク等）の提供を実施しました。他、市内で地域公益活動を実施している事業所（特別養護老人ホーム清光園、ライフネットゆうばり）と連携を図り、生活困窮者等に対する安心サポート事業を活用し、経済的援助を受けることが出来るように対応しました。
- ・厚生労働省から情報提供を受けた「生活困窮者等へ携帯電話等サービスを提供している事業者リスト」をもとにリスタート・ケータイと連携を図り、就労等へ向けて携帯電話を必要としている被保護者への対応を実施しました。

3、子ども家庭総合支援拠点事業

(1) 実施体制

職員体制については業務管理責任者、相談支援員を配置

(2) 事業実施内容

(子どもの家庭支援全般に係る業務)

関係機関から子どもの様子について情報提供を受けた場合には、保護者に連絡し家庭での子どもの様子について確認を行ない、必要時には家庭訪問も実施しました。

(要支援児童及び要保護児童等並びに特定妊婦等への支援業務)

夕張市役所生活福祉課生活福祉係の相談員と共に定期訪問する中で、保護者の困り感を共有し、助言や指導を行ないました。

(関係機関との連絡調整)

岩見沢児童相談所の巡回児童相談（年5回実施）での検査結果から、発達に課題のある子どもが多く、経過観察になるケースや医療機関への受診が必要となる場合があり、その際には医療機関を紹介し通院への同行、医師診察の場にも同席をしました。

(婦人相談)

・夫婦の離婚に伴い、子どもの養育費について相談がある際には、夕張市が実施している無料法律相談を紹介し、相談の際には同席をしました。

・職場トラブルを抱えた相談者については、夕張市の婦人相談員と共に栗山警察署へ出向き相談を行ない、夕張市各課や生活困窮者自立相談支援事業の担当者とも連携を図り対応しました。

・療育手帳を所持している相談者には、生活困窮者自立相談支援事業や相談支援事業所と連携を図り対応しました。

(3) 支援実績

- ・家庭児童相談受付（実数）50件 （延べ件数）420件

・ 婦人相談受付（実数） 8 件 （延べ件数） 1 1 9 件

（４） 各関係機関との連携状況

（家庭児童相談）

市内の小学校、中学校、高校、認定こども園、放課後等デイサービス「からころ」、ことばの教室、学童、岩見沢児童相談所、医療機関と連携しました。

（婦人相談）

医療機関（精神科）、夕張市無料法律相談、栗山警察署、夕張市役所市民課、札幌市役所南区保健センター、生活困窮者自立相談支援事業所、障がい者の相談支援事業所と連携しました。